活　動　報　告

日本語研修コース

深見兼孝

［修了者］

第 42 期生名簿（2006 年 4 月〜2006 年 9 月）［11 名］

氏名	呼び名	国籍	専攻	大学
DANAR PRASEPTIANGGA	ダナル	インドネシア	海洋生物学	広島大学
ARIYARATINE, HASITHA BIMSARA	ハシタ	スリランカ	情報工学	広島大学
JHA DEEPENDRA KUMAR	ディーペンドラ	ネパール	パワーシステム工学	広島大学
MACAHIG, RENE ANGELO, SARMIENTO	レネ	フィリピン	理学	広島大学
HTUN THEIN	トゥンテイン	ミャンマー	畜産（漁業）	広島大学
MANATSHA, BOGA THURA	ボガ	ボツワナ	農業史	広島大学
VELA, JUALIM, DATILES	ジュアリム	フィリピン	芸術学	広島市立大学
TANAKA, KAREN TALITA	カレン	ブラジル	経済学	広島大学
JOSHI NIRAJI PRAKASH	ニラジ	ネパール	農業史	広島大学
王 盛 （オウ セイ）	オウセイ	中国	教育学	広島大学
謝 地 （シャ チ）	シャチ	中国	保健学	広島大学

［修了者］

第 43 期生名簿（2006 年 10 月～2007 年３月）［９名］

氏名	呼び名	国籍	専攻	大学
HERLAMBANG BAGUS	バグス	インドネシア	医学	広島大学
LIYANAPATHIRANA, NIRUPIKA SAMANTHI	ニルピカ	スリランカ	経営・金融	広島大学
HADOUSH, HIKMAT MOH'D	ヒクマト	ヨルダン	理学療法	広島大学
GRAFIL, RUEL ALOTA	ルエル	フィリピン	社会教育	広島大学
LADIMO, LERMA DELMONTE	レルマ	フィリピン	数学教育	広島大学
ROMERO, MARIBEL SISON	マリベル	フィリピン	科学教育	広島大学
NAVAANDAMBA, KHAJIDSUREN	ハジダスレン	モンゴル	統計学教育	広島大学
MWANGI, SAMUEL GITONGA	ムワンギ	ケニヤ	物理教育	広島大学
ATHIKA CHUNTANAPUM	アティカー	タイ	工学	広島大学

講師一覧

第 42 期（2006 年４月〜2006 年９月）

専任　浮田三郎　玉岡賀津雄　多和田眞一郎　中川正弘　深見兼孝

非常勤　伊ヶ崎泰枝　石井敬子　今石正人　後藤美知子　佐藤道雄

［専門用語解説］

上真一（生物圏科学研究科）　浦邉幸夫（保健学研究科）　大塚英昭（医歯薬学総合研究科）　沖原謙（教育学研究科）　金子慎治（国際協力研究科）　原田耕一（工学研究科）　堀貫治（生物圏科学研究科）　マハラジャン，ケシャブ・ラル（国際協力研究科）　三根和浪（教育学研究科）　餘利野直人（工学研究科）

第 43 期（2006 年 10 月〜2007 年３月）

専任　浮田三郎　玉岡賀津雄　多和田眞一郎　中川正弘　深見兼孝

非常勤　伊ヶ崎泰枝　石井敬子　今石正人　後藤美知子　佐藤道雄

［専門用語解説］

磯崎哲夫（教育学研究科）　今岡光範（教育学研究科）　植田敦三（教育学研究科）　金原達夫（国際協力研究科）　小原友行（教育学研究科）　蔦岡孝則（教育学研究科）　飛松好子（保健学研究科）　前島洋（保健学研究科）　松村幸彦（工学研究科）　渡橋和政（医歯薬学総合研究科）

第 42 期（2006 年４月〜2006 年９月）予定表

期日	行事／試験等	見学（総合演習）	備考
４／7	４／7（金） 11:00オリエンテーション(K308)		４／7（金）国際交流会館生活オリエンテーション ４／8（土）東広島オリエンテーションバスツアー
４／10−４／14	４／10(月) １1:00 開講式(教育学部第3･4会議室)		４／10(月) 11:30ホストファミリー案内(K308) 全学留学生オリエンテーション
４／17−４／21		４／21(金) 広島市	４／21(金) 17:30ホストファミリー対面式
４／24−４／28			４／27(木)健康管理オリエンテーション ４／29(土)公休日
５／１−５／５			５／３(水)〜５／５(金)公休日
５／８−５／12			５／13（土）国際交流会館防災訓練
５／15−５／19			
５／22−５／26		５／26(金) 宮島	
５／29−６／２			
６／５−６／９	６／７(水)中間試験 ６／８(木)専門用語解説開始		
６／12−６／16			
６／19−６／23			
６／26-６／30			
７／３−７／７		７／７(金) マツダ	
７／10−７／14			
７／17−７／21			７／17(月)公休日
７／24−７／28			
7/31			
８／１−８／31	夏休み		
９／１	９／１(金)期末試験		
９／４- ９／８	９／４(月) - ９／７(木)特別講義 ９／８(金) 13:30修了式(教育学部第3･4会議室) 14:00成果発表会(〃)		

第 43 期（2006 年 10 月～2007 年３月）予定表

期日	行事／試験等	見学(総合演習)	備考
10／10－10／13	10／10(火) 13:00オリエンテーション(K308) 10／11(水) 11:00 開講式(教育学部第3･4会議室)		10／11(水) 11:30ホストファミリー案内 (K308) 10／12(木)医療･保険関係 オリエンテーション(K308)
10／16－10／20		10／20(金) 広島市	10／20(金) 17:00ホストファミリー対面式
10／23－10／27			
10／30－11／3			11／3(金)公休日
11／6－11／10	11／9(木)「専門用語解説」開始 (～1／25)		
11／13－11／17			
11／20－11／24		11／24(金) 宮島	11／23(木)公休日
11／27－12／1			
12／4－12／8	12／6(水)中間試験		
12／11－12／15			
12／18－12／22			12／23(土)公休日
12／24-1／7	冬休み		
1／8－1／12			1／8(月)公休日
1／15－1／19			
1／22－1／26		1／26(金) マツダ	
1／29－2／2			
2／5－2／9			
2／12- 2／16	2／14(水)期末試験		2／12(月)公休日
2／19- 2 ／23	特別講義		
2／26-3／1	2／26(月)～28(水)特別講義 3／1(木) 13:30修了式(教育学部第3･4会議室) 14:00成果発表会(″)		

日本語教育部門：日本語・日本事情
（２００６年４月～２００７年３月）

田　村　泰　男

１．授業科目一覧

・東広島キャンパス

授　業　科　目	開　設 単位数	学期別週授業時数 前　期	後　期	備　　考
総合日本語初級ＩＡ	１・１	2	2	広島大学外国人留学生のための授業である。
総合日本語初級ＩＢ	１・１	2	2	
総合日本語初級ＩＣ	１・１	2	2	
総合日本語初級ⅡＡ	１・１	2	2	
総合日本語初級ⅡＢ	１・１	2	2	
総合日本語初級ⅡＣ	１・１	2	2	
総合日本語中級ＩＡ	1	2		
総合日本語中級ＩＢ	1	2		
総合日本語中級ＩＣ	1	2		
総合日本語中級ＩＤ	1		2	
総合日本語中級ＩＥ	1		2	
総合日本語中級ＩＦ	1		2	
総合日本語中級ⅡＡ	1	2		
総合日本語中級ⅡＢ	1	2		
総合日本語中級ⅡＣ	1	2		
総合日本語中級ⅡＤ	1		2	
総合日本語中級ⅡＥ	1		2	
総合日本語中級ⅡＦ	1		2	

日本語聴解特別演習Ａ	1	2		
日本語聴解特別演習Ｂ	1		2	
日本語分析特別演習Ａ	1	2		
日本語分析特別演習Ｂ	1		2	
日本語表現特別演習Ａ	1	2		
日本語表現特別演習Ｂ	1		2	
日本語古文特別演習Ｂ	1	2		
日本語古文特別演習Ｂ	1		2	
日本語語彙特別演習Ａ	1	2		
日本語語彙特別演習Ｂ	1		2	
映像日本語特別演習Ａ	1	2		
映像日本語特別演習Ｂ	1		2	
日本の社会・文化Ａ	1	2		
日本の社会・文化Ｂ	1		2	
日本の思想・哲学Ａ	1	2		
日本の思想・哲学Ｂ	1		2	
日本の地域・文化Ａ	1	2		
日本の地域・文化Ｂ	1		2	
日本語・日本文化特別研究ＩＡ	4		4	
日本語・日本文化特別研究ＩＢ	4		4	
日本語・日本文化特別研究ＩＣ	4		4	
日本語・日本文化特別研究ⅡＡ	4	4		
日本語・日本文化特別研究ⅡＢ	4	4		
日本語・日本文化特別研究ⅡＣ	4	4		

・霞キャンパス

授　業　科　目	開　設 単位数	学期別週授業時数		備　　考
		前　期	後　期	
総合日本語初級ＩＡ	１・１	２	２	広島大学外国人留学生のための授業である。
総合日本語初級ＩＢ	１・１	２	２	
総合日本語初級ⅡＡ	１・１	２	２	

２．授業内容

（東広島キャンパス）

・レベル１

授業科目	総合日本語初級ＩＡ・ＩＢ・ＩＣ
担当教官	石原 淳也・深見 兼孝・山中 康子・下村真理子
目　　標	かな及び基本的な漢字の読み方・書き方、初歩的な文法を習得させる。
内　　容	1.文字の導入　　2.基本文型の導入 3.音読練習　　4.口頭及び筆記による応用練習
テキスト	「みんなの日本語初級Ｉ　本冊」（スリーエーネットワーク）
成績評価の方法	出席・試験・宿題

・レベル２

授業科目	総合日本語初級ⅡＡ・ⅡＢ・ⅡＣ
担当教官	田村 泰男・中川 正弘・下村 真理子
目　　標	初級後半レベルの基礎的な語彙・文型・表現を学習し、併せて種々の場面に応じた実用的な日本語表現能力を習得させる。
内　　容	第1週－第5週 依頼表現、可能表現、継続・習慣の表現、理由の表現、意志・予定の表現、完了表現、自動詞／他動詞、推量表現、忠告の表現、命令・禁止表現、テスト(1) 第6週－第10週 時間表現、付帯状況の表現、条件表現、目的・目標の表現、状態変化の表現、受身表現、形式名詞、理由・原因の表現、疑問詞疑問文、試行の表現、テスト(2) 第11週－第15週 授受表現、目的の表現、様態の表現、移動の表現、難易表現、伝聞表現、使役表現、敬語、テスト(3)
テキスト	「みんなの日本語初級Ⅱ　本冊」（スリーエーネットワーク）
成績評価の方法	出席・試験・宿題

・レベル３

授業科目	総合日本語中級ＩＡ・ＩＢ
担当教官	浮田 三郎・渡部 浩見
目　　標	中級レベルの長文を読み、内容を理解する能力を身に付ける。今までに学んだ基本的な表現を使って、日本語で議論をしたり自分の意見を表現できるようにする。
内　　容	扱う内容は以下の通り。 ～くて／で、～てから、～へ～に行く、～ましょう、～を出る、全部で～、～といっしょに、連体修飾、一番＋形容詞、決して～ない、～そう、～なければなりません、～だけでも、～たり～たります、～しか～ない、～を例として、～にとって、～の前に、～つもりです、～をはじめ、～とか～とか、～ば～ほど、～とおりに、～で～をする、～てある、授受表現、～そうです、～く／～になる、～ながら、～ので、～のは、～には、もう、～のよう、～たばかり、～時には、～のです、～て／～で、～にとって、なかなか～ません、～うか（な）と思います、～ことが／～こともあります
テキスト	「日本語中級読解入門」（アルク）
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	総合日本語中級ＩＣ
担当教官	坂田 光美
目　　標	さまざまな形式の文章表現を耳から理解できるようになる。
内　　容	各課ひとつのトピックスについての文章をテープを通して聞き、それについての質問に答えていく。文章は、各課ごとにの次第に長くなっていくが、練習によって、理解した事柄を口頭でも、筆記でも答えられるようパターン学習する。
テキスト	「毎日の聞き取り５０日 vol.2」（凡人社）
成績評価の方法	出席状況と平常点、および期末試験による総合評価。

授業科目	総合日本語中級ＩＤ・ＩＥ
担当教官	浮田 三郎・渡部 浩見
目　　標	中級レベルの長い文章を読み、それが何を伝えようとしたものであるかを確実に読みとる読解力を身に付け、さらにその内容を的確に言語表現できる能力を養うことを目標とする。
内　　容	その課に出てくる文型、語彙等について解説を加えた後、長文を読み内容を理解したうえで、長文の内容についての質問に答える。適宜、トピックに関連した日本文化についての解説を加える。 第1週～第7週 新宿、工場見学、方言、思い出の人形、日本間、青と緑、テスト 第8週～第15週 マンガ、志のままに、すし、河童、寄席、睡眠、テスト
テキスト	「日本語2ndステップ」（白帝社）
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	総合日本語中級ＩＦ
担当教官	下村 真理子
目　　標	さまざまな形式の文章表現を耳から理解できるようになる。
内　　容	毎回ひとつのトピックスについての平易な文章をテープを通して聞き、それについての質問に答えていく。文章は、各課ごとに次第に長くなっていくが、練習によって、理解した事柄を口頭でも、筆記でも答えられるようパターン学習する。
テキスト	「毎日の聞き取り５０日 vol.1」（凡人社）
成績評価の方法	出席状況と平常点、および期末試験による総合評価。

・レベル４

授業科目	総合日本語中級ⅡＡ・ⅡＢ
担当教官	田村 泰男・坂田 光美
目　　標	中級レベルの文法・語彙・表現の定着を図るとともに長文読解能力を養成する。
内　　容	トピックに基づいて書かれた日本語中級学習者用の読解教材を読み進みながら、中級レベルの文型・語彙・表現を学習する。 授業では、特に次の語彙・表現の解説を行う。 ～ざるをえない、～ようになる、できるだけ～、～おかげで、 ～のように、～よりもむしろ～のほうが、～ことだ、～のだ、 ～とはなしに～していると、かえって～、せめて～たら、 ～するやいなや、お／ご～、たとえ～ても、～（と）している、 ～がち、～た／だ上で、～わけにはいかない、～うちに、 ～た途端、～かねない、～とのことである、～にわたって、 ～とともに、まるで～ようだ、～さ／～み／～め
テキスト	「日本語中級読解新版」（アルク）
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	総合日本語中級ⅡＣ
担当教官	山中 康子
目　　標	ニュースの聞き取りを通じて、ニュースに特有な表現・語彙に慣れ、必要な情報を選択する能力を養うとともに、日本社会に対する知識を増やすことを目的とする。
内　　容	（前半）短文聴解　日常的な話題の聴解 1. 自然 2. 事故 3. 生活 4. 社会 （後半）長文聴解総合的な話題の聴解 1. 社会経済 2. 政治 3. 医学 4. スポーツ
テキスト	「毎日の聞き取りplus40 下」（凡人社）
成績評価の方法	中間試験、期末試験、及び出席状況を考慮して評価する。

授業科目	総合日本語中級ⅡＤ・ⅡＥ
担当教官	田村 泰男・坂田 光美
目　　標	中級レベルの文法・語彙・表現の定着を図るとともに長文読解能力を養成する。
内　　容	トピックに基づいて書かれた日本語中級学習者用の読解教材を読み進みながら、中級レベルの文型・語彙・表現を学習し、部分作　文によって新出項目の定着を図る。授業では、特に次の語彙・表　現の解説を行う。ながら、まい、わけだ、でも、ほど、なら、ても、てくる、てしまう、ながら、よう、がる、ことにする／なる、～とか～とか、てたまらない、ばかり、ものだ、てみる、 中、～し～し、かもしれません、つもり、くらい、なければならない、まま、～から～にかけて、ものの、～やら～やら、につれて、～ば～ほど、として、によって、ところ、にとって、はず、さえ、うち
テキスト	「テーマ別中級から学ぶ日本語」（研究社）
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	総合日本語中級ⅡＦ
担当教官	山中 康子
目　　標	身近なトピックにより、日本に対する理解を深めるとともに、多様な場面や状況を理解し、語彙を増やす。聞き取りだけでなく、多角的な練習により、総合的な日本語の力を伸ばす。
内　　容	教材を聴く前に先ず、 (1)イラストによって、教材の内容を概観する。 (2)関連語彙や、背景となる知識を導入する。 (3)教材の内容に関する短い文章を読み、クイズに答える。 教材を聴いた後 (4)タスクに答える。 (5)話題に関連した補足説明を読み、知識を深める。 (6)語彙、表現の定着を図るために、口頭練習を行う。 (7)音声言語としての日本語についての理解を深める。
テキスト	「毎日の聞き取りplus40　上」（凡人社）
成績評価の方法	試験、出席、課題

・レベル５

授業科目	日本語聴解特別演習Ａ
担当教官	深見 兼孝
目　　標	現代日本のさまざまな問題を取り上げた時事エッセイの聴解能力を養い、併せてそれに特有の語彙・表現を学習する。
内　　容	次のような段階を踏んで、内容を理解する練習を行う。 後にそれを文字化したものを読み、理解を補う。 1）キーワードの理解と聞き取り 2）概要の把握 3）細部の聞き取り さらに、重要語句の使い方について練習する。
テキスト	市販の中・上級用教材の一部と付属のテープ。および担当者の自主教材。
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	日本語聴解特別演習Ｂ
担当教官	深見 兼孝
目　　標	ニュースの聴解能力を養い、併せてそれに特有の語彙・表現を学習する。
内　　容	ニュースを聞き、次の段階を踏んでその内容を理解する練習を行う。また、スクリプトの完成を行うことによって、漢字、語彙、表現の使い方を学習する。 1) キーワードの理解と聞き取り 2) 概要の聞き取り 3) 細部の聞き取り 4) ディクテーション
テキスト	市販の中・上級用教材の一部と付属のテープ。および担当者の自主教材。
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	日本語分析特別演習Ａ
担当教官	中川　正弘
目　　標	日本語で文章を綴ることに慣れ、自分たち外国人の日本語を日本人の日本語と比較分析することで日本語の理解を深める。
内　　容	自分の使う日本語をはっきりと目に見える形にするために、毎週日本語作文を提出してもらう。その作文は自分の書いた文章と書き直しが客観的に対照しやすいようにワープロ編集をして返すので、自分の日本語の問題点を考える。授業ではそれらの日本語作文から間違っている文、あるいは何か問題がある文を例に選び、時には何通りもある書き直し方や関連するさまざまな文法、表現の例と比較しながら、日本人の日本語がどのような感覚、心理、考え方を土台としているかを分析し、さまざまな文体的事象について解説していく。前期は日本語への翻訳、要約を多く扱う。
テキスト	用例のプリントを毎回配布する。
成績評価の方法	提出作文、テスト

授業科目	日本語分析特別演習Ｂ
担当教官	中川　正弘
目　　標	日本語で文章を綴ることに慣れ、自分たち外国人の日本語を日本人の日本語と比較分析することで日本語の理解を深める。
内　　容	自分の使う日本語をはっきりと目に見える形にするために、毎週日本語作文を提出してもらう。その作文は自分の書いた文章と書き直しが客観的に対照しやすいようにワープロ編集をして返すので、自分の日本語の問題点を考える。授業ではそれらの日本語作文から間違っている文、あるいは何か問題がある文を例に選び、時には何通りもある書き直し方や関連するさまざまな文法、表現の例と比較しながら、日本人の日本語がどのような感覚、心理、考え方を土台としているかを分析し、さまざまな文体的事象について解説していく。後期は報告文、説明文を多く扱う。
テキスト	用例のプリントを毎回配布する。
成績評価の方法	提出作文、テスト

授業科目	日本語表現特別演習Ａ
担当教官	浮田　三郎
目　　標	日本の諺を教材にして、時には世界各国の諺と対照比較し、日本語的な表現法、比喩表現の面白さ、日本的な考え方、日本の文化や風土などの理解を目指す。
内　　容	日本の代表的な諺を、時には世界各国の諺と対照比較しながら、留学生達の意見を発表してもらい、ディスカッションする。日本語的な表現法を学習し、各々の諺が持っているテーマや特徴を、簡単なクイズ形式の設問を用いて、考えてみる機会を与える。 テーマ別には、以下に掲げる通りである。 1. 諺の表現法　2. 親と子　3. 夫婦　4. 恋愛 5. 油断と用心　6. 欲　7. 酒　8. 友　9. 秘密
テキスト	自主教材、金子武雄『日本の諺』（１９８２年）等
成績評価の方法	授業への出席状況とレポートによって評価する。

授業科目	日本語表現特別演習Ｂ
担当教官	浮田　三郎
目　　標	日本の諺を教材にして、時には世界各国の諺と対照比較し、日本語的な表現法、比喩表現の面白さ、日本的な考え方、日本の文化や風土などの理解を目指す。
内　　容	日本の代表的な諺を、時には世界各国の諺と対照比較しながら、留学生達の意見を発表してもらい、ディスカッションする。日本語的な表現法を学習し、各々の諺が持っているテーマや特徴を、簡単なクイズ形式の設問を用いて、考えてみる機会を与える。テーマ別には、以下に掲げる通りである。 1.睡眠　2.病気　3.生死　4.季節　5.天候 6.学者　7.教育　8.義理　9.動物と比喩
テキスト	自主教材、金子武雄『日本の諺』（１９８２年）等
成績評価の方法	授業への出席状況とレポートによって評価する。

授業科目	日本語古文特別演習Ａ
担当教官	多和田 眞一郎
目　　標	「日本語古文」基礎を学習する。 日本語古文読解のための基本的知識を身につける。
内　　容	現代日本語との関連を考慮に入れながら、日本語古文を理解するための基礎力を養う。合わせて、研究のための資料として古文書を扱う際の心得についても考える。 (内容) 　現代語と古典語、古典語文法基礎、十九世紀の日本語の例、 十八世紀の日本語の例、十七世紀の日本語の例、漢文の基礎等
テキスト	自主教材（プリント配布）
成績評価の方法	出席、試験

授業科目	日本語古文特別演習Ｂ
担当教官	多和田 眞一郎
目　　標	日本語古文特別演習Aを踏まえ、「日本語古文」の応用学習をする。日本語古文読解のための応用的知識を身につける。
内　　容	日本語古文読解ための応用力を養う。合わせて、研究のための資料として古文書を扱う際の問題点についても考える。 (内容) 　現代語と古典語、古典語文法、十九世紀の日本語の読解、 　十八世紀の日本 語の読解、十七世紀の日本語の読解、 　漢文の読解等
テキスト	自主教材（プリント配布）
成績評価の方法	出席、試験

授業科目	日本語語彙特別演習Ａ
担当教官	田村　泰男
目　　標	常用漢字に採択されている漢字の訓読みや慣用句、擬音語・擬態語を学習することによって、より自然な日本語表現能力の習得を目指す。
内　　容	1. 漢字の訓読み 2. 同訓異字 3. 各種比喩表現 4. 身体語彙を使った慣用句 5. 動植物の語彙を使った慣用句 6. 擬音語・擬態語
テキスト	プリントを配布する。
成績評価の方法	テスト、出席、宿題

授業科目	日本語語彙特別演習Ｂ
担当教官	田村　泰男
目　　標	慣用的な読み方をする漢字や類義語、接頭辞・接尾辞などを学習することによって、日本語での表現能力を高めるとともに、各種類意表現のもつ意味上の微妙な違いについての理解をはかる。
内　　容	1.特別な読み方をする漢字 2.送り仮名によって読み方の違う漢字 3.読み方が二通りある漢字熟語 4.国字　　5.畳語　　6.類義語・類意表現 7.若者語　8.外来語　9.接頭辞・接尾辞
テキスト	プリントを配布する。
成績評価の方法	テスト、出席、宿題

授業科目	映像日本語特別演習Ａ
担当教官	石原 淳也
目　　標	日本映画・アニメーションを見ていく中で、1)日本語の音声に関する解説および聞き取り練習を行うこと、2)セリフに出てくる語の用法・意味の解説を通じて語彙を増やすこと、3)映画の中で出演者がなぜそのように振る舞うかということを通じて日本人の考え方を理解すること、4)映画の中で扱われるエピソードを通じて日本の文化を知ることを目標とする。
内　　容	第1週-第9週 「金融腐食列島」を最後まで見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。 第10週-第15週 「うる星やつら」を見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。
テキスト	必要に応じプリントを配布。
成績評価の方法	出席・授業態度・レポート

授業科目	映像日本語特別演習Ｂ
担当教官	石原 淳也
目　　標	日本映画・アニメーションを見ていく中で、 1)日本語の音声に関する解説および聞き取り練習を行うこと 2)セリフに出てくる語の用法・意味の解説を通じて語彙を増やすこと 3)映画の中で出演者がなぜそのように振る舞うかということを通じて日本人の考え方を理解すること 4)映画の中で扱われるエピソードを通じて日本の文化を知ることを目標とする。
内　　容	映画・アニメーションを見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。
テキスト	必要に応じプリントを配布。
成績評価の方法	出席・授業態度・レポート

・日本事情

授業科目	日本の社会・文化Ａ
担当教官	中矢 礼美
目　　標	この授業の目標は、現代日本における特徴的な社会現象あるいは問題をとりあげ、社会学、生命倫理学、教育学の視点から読み解き、日本の社会と文化に対する認識をより深めることである。
内　　容	1.2. 若者のライフスタイルと職業意識 3.4. 日本における「中流階級文化」 5.6. ジェンダーフリー　7. 試験 8.9. 生命倫理　10.11.12. 現代家族の様相 13.14.現代の教育課題と教育改革　15. 試験.
テキスト	テキストは特になし。毎回の授業テーマに沿った資料をコピーして配布する。
成績評価の方法	出席50%、試験50%

授業科目	日本の社会・文化Ｂ
担当教官	中矢 礼美
目　　標	この授業の目標は、現代日本における特徴的な社会現象あるいは問題をとりあげ、社会学、教育学、人類学の視点から読み解き、日本の社会と文化に対する認識をより深めることである。
内　　容	1. 2.　メディアとは何か 3. 4.　サブカルチャーとは何か 5. 6.　少年犯罪 7.　試験 8. 9.　男性学と女性学 10. 11.　教育問題―不登校・学級崩壊 12. 13. 14.　観光人類学－観光のしかけ・観光が作り出す文化 15.　試験
テキスト	テキストは特になし。毎回の授業テーマに沿った資料をコピーして配布する。
成績評価の方法	出席50%、試験50%

授業科目	日本の思想・哲学A
担当教官	橋本 敬司
目　　標	日本の思想・哲学を歴史的あるいは現代的に考察することにより、学習者各自が日本と日本人を発見するとともに自らの思想を形成していくこと。
内　　容	方丈記、平家物語などのテキストを読み、歴史的に日本人の思想・哲学を支える無常観・死生観・美意識などについて考察する。
テキスト	随時コピーを配布する。
成績評価の方法	出席とレポート

授業科目	日本の思想・哲学B
担当教官	橋本 敬司
目　　標	日本の思想・哲学を歴史的あるいは現代的に考察することにより、学習者各自が日本と日本人を発見するとともに自らの思想を形成していくこと。
内　　容	「日本の思想・哲学A」の学習をもとに、現代の病理として生じた事件を取り上げ、その裏に潜む日本人の思想・哲学について考察する。
テキスト	随時コピーを配布する。
成績評価の方法	出席とレポート

授業科目	日本の地域・文化Ａ
担当教官	玉岡　賀津雄
目　　標	日本の地域と文化を理解すること。
内　　容	広島大学の留学生を対象に，日本の地域と文化を紹介する。地域の文化遺産，風土，人々の生活を探っていく。授業では，ビデオ，DVDなどを使って，実際の映像から日本の地域や文化を広く理解する。また，ゲストを招いて，さまざまな地域の紹介や討論を行う。地域と文化Ａでは，日本の南の地域(東京から南)を中心に紹介する。
テキスト	特になし
成績評価の方法	日々の授業への出席と活発な参加・短い事例報告・短い発表。

授業科目	日本の地域・文化Ｂ
担当教官	玉岡　賀津雄
目　　標	日本の地域と文化を理解すること。
内　　容	地域と文化Ａと引き続き，広島大学の留学生を対象に，日本の地域と文化を紹介する。地域の文化遺産，風土，人々の生活を探っていく。授業では，ビデオ，DVDなどを使って，実際の映像から日本の地域や文化を広く理解する。また，ゲストを招いて，さまざまな地域の紹介や討論を行う。地域と文化Ｂでは，日本の北の地域(東　京より北)を中心に紹介する。
テキスト	特になし。
成績評価の方法	日々の授業への出席と活発な参加・短い事例報告・短い発表。

・特定研究

授業科目	日本語・日本文化特別研究Ⅰ
担当教官	中川 正弘・田村 泰男・石原 淳也
目　　標	一連の特別講義、および見学・実習から、高度な日本語の知識や運用能力を身に付け、日本および広島周辺の社会・文化についての理解を深める。
内　　容	日本語・日本文化研修プログラムの一環として、日本語・日本文化に関する講義、日本および広島周辺地域における社会、産業、文化を理解するための実地研修ならびに研究指導を行なう。 オリエンテーション、日本語・日本文化特別講義I～VI、 地域研修I～VI、研修レポート構想発表
テキスト	必要に応じてプリントを配布。
成績評価の方法	出席・レポート・宿題

授業科目	日本語・日本文化特別研究Ⅱ
担当教官	中川 正弘・田村 泰男・石原 淳也
目　　標	一連の特別講義、および見学・実習から、高度な日本語の知識や運用能力を身に付け、日本および広島周辺の社会・文化についての理解を深める。
内　　容	日本語・日本文化研修プログラムの一環として、日本語・日本文化に関する講義、日本および広島周辺地域における社会、産業、文化を理解するための実地研修ならびに研究指導を行なう。 オリエンテーション 研修レポート構想発表 日本語・日本文化特別講義VII～XII 地域研修VII～XII 研修レポート要旨発表
テキスト	必要に応じてプリントを配布。
成績評価の方法	出席・レポート・宿題

（霞キャンパス）
・レベル１

授業科目	総合日本語初級ＩＡ
担当教官	山中 康子
目　　標	かな及び基本的な漢字の読み方・書き方、初歩的な文法を習得させる。
内　　容	1.文字の導入 2.基本文型の導入 3.音読練習 4.口頭及び筆記による応用練習
テキスト	「みんなの日本語初級Ｉ　本冊」（スリーエーネットワーク）
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	総合日本語初級ＩＢ
担当教官	渡部 浩見
目　　標	かな及び基本的な漢字の読み方・書き方、初歩的な文法を習得させる。
内　　容	1.文字の導入 2.基本文型の導入 3.音読練習 4.口頭及び筆記による応用練習
テキスト	「みんなの日本語初級Ｉ　本冊」（スリーエーネットワーク）
成績評価の方法	出席・試験・宿題

・レベル２

授業科目	総合日本語初級ⅡＡ
担当教官	渡部 浩見
目　　標	初級後半レベルの基礎的な語彙・文型・表現を学習し、併せて種々の場面に応じた実用的な日本語表現能力を習得させる。
内　　容	第1週－第5週 依頼表現、可能表現、継続・習慣の表現、理由の表現、意志・予定の表現、完了表現、自動詞／他動詞、推量表現、忠告の表現、命令・禁止表現、テスト(1) 第6週－第10週 時間表現、付帯状況の表現、条件表現、目的・目標の表現、状態変化の表現、受身表現、形式名詞、理由・原因の表現、疑問詞疑問文、試行の表現、テスト(2) 第11週－第15週 授受表現、目的の表現、様態の表現、移動の表現、難易表現、伝聞表現、使役表現、敬語、テスト(3)
テキスト	「みんなの日本語初級Ⅱ　本冊」（スリーエーネットワーク）
成績評価の方法	出席・試験

日本語教育部門：留学生関係科目

（２００６年４月～２００７年３月）

田　村　泰　男

１．授業科目一覧

・東広島キャンパス

授　業　科　目	開　設 単位数	学期別週授業時数 前　期	後　期	備　　考
Elementary Japanese Ⅰ A	2		2	広島大学短期交換留学生のための授業である。
Elementary Japanese Ⅰ B	2		2	
Elementary Japanese Ⅰ C	2		2	
Elementary Japanese Ⅰ D	2		2	
Elementary Japanese Ⅱ A	2・2	2	2	
Elementary Japanese Ⅱ B	2・2	2	2	
Elementary Japanese Ⅱ C	2・2	2	2	
Intermediate Japanese Ⅰ A	2		2	
Intermediate Japanese Ⅰ B	2		2	
Intermediate Japanese Ⅰ C	2		2	
Intermediate Japanese Ⅰ D	2	2		
Intermediate Japanese Ⅰ E	2	2		
Intermediate Japanese Ⅰ F	2	2		
Intermediate Japanese Ⅱ A	2		2	
Intermediate Japanese Ⅱ B	2		2	
Intermediate Japanese Ⅱ C	2		2	
Intermediate Japanese Ⅱ D	2	2		
Intermediate Japanese Ⅱ E	2	2		
Intermediate Japanese Ⅱ F	2	2		

Advanced Japanese A (Listening)	2	2		
Advanced Japanese B (Listening)	2		2	
Advanced Japanese A (Analysis)	2	2		
Advanced Japanese B (Analysis)	2		2	
Advanced Japanese A (Expression)	2	2		
Advanced Japanese B (Expression)	2		2	
Advanced Japanese A (Classical)	2	2		
Advanced Japanese B (Classical)	2		2	
Advanced Japanese A (Lexical)	2	2		
Advanced Japanese B (Lexical)	2		2	
Advanced Japanese A (Cinema)	2	2		
Advanced Japanese B (Cinema)	2		2	
Japanese Society and Culture A	2	2		
Japanese Society and Culture B	2		2	
Japanese Thought and Philosophy A	2	2		
Japanese Thought and Philosophy B	2		2	
Japanese Community and Culture A	2	2		
Japanese Community and Culture B	2		2	

２．授業内容
（東広島キャンパス）
・レベル１

授業科目	Elementary　Japanese　ＩＡ・ＩＢ・ＩＣ・ＩＤ
担当教官	堀田　泰司・渡辺　久美
目　　標	かな及び基本的な漢字の読み方・書き方、初歩的な文法を習得させる。
内　　容	1.文字の導入　　2.基本文型の導入 3.音読練習　　4.口頭及び筆記による応用練習
テキスト	「みんなの日本語初級Ｉ　本冊」（スリーエーネットワーク）
成績評価の方法	出席・試験・宿題

・レベル２

授業科目	Elementary　Japanese　II　A・II　B・II　C
担当教官	恒松　直美・松崎　寛
目　　標	初級後半レベルの基礎的な語彙・文型・表現を学習し、併せて種々の場面に応じた実用的な日本語表現能力を習得させる。
内　　容	第1週－第5週 依頼表現、可能表現、継続・習慣の表現、理由の表現、意志・予定の表現、完了表現、自動詞／他動詞、推量表現、忠告の表現、命令・禁止表現、テスト(1) 第6週－第10週 時間表現、付帯状況の表現、条件表現、目的・目標の表現、状態変化の表現、受身表現、形式名詞、理由・原因の表現、疑問詞疑問文、試行の表現、テスト(2) 第11週－第15週 授受表現、目的の表現、様態の表現、移動の表現、難易表現、伝聞表現、使役表現、敬語、テスト(3)
テキスト	「みんなの日本語初級Ⅱ　本冊」（スリーエーネットワーク）
成績評価の方法	出席・小テスト・宿題・中間期末試験

・レベル３

授業科目	Intermediate　Japanese　ＩＡ・ＩＢ
担当教官	石原 淳也
目　　標	中級レベルの長い文章を読み、それが何を伝えようとしたものであるかを確実に読みとる読解力を身に付け、さらにその内容を的確に言語表現できる能力を養うことを目標とする。
内　　容	その課に出てくる文型、語彙等について解説を加えた後、長文を 読み内容を理解したうえで、長文の内容についての質問に答える。 適宜、トピックに関連した日本文化についての解説を加える。 第1週～第7週 新宿、工場見学、方言、思い出の人形、日本間、青と緑、テスト(1) 第8週～第15週 マンガ、志のままに、すし、河童、寄席、睡眠、テスト(2)
テキスト	「日本語2ndステップ」（白帝社）
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	Intermediate　Japanese　ＩＣ
担当教官	下村 真理子
目　　標	さまざまな形式の文章表現を耳から理解できるようになる。
内　　容	毎回ひとつのトピックスについての平易な文章をテープを通して聞き、それについての質問に答えていく。文章は、各課ごとに次第に長くなっていくが、練習によって、理解した事柄を口頭でも、筆記でも答えられるようパターン学習する。
テキスト	「毎日の聞き取り５０日 vol.1」（凡人社）
成績評価の方法	出席状況と平常点、および期末試験による総合評価。

授業科目	Intermediate　Japanese　ＩＤ・ＩＥ
担当教官	石原 淳也
目　　標	中級レベルの長い文章を読み、それが何を伝えようとしたものであるかを確実に読みとる読解力を身に付け、さらにその内容を的確に言語表現できる能力を養うことを目標とする。
内　　容	その課に出てくる文型、語彙等について解説を加えた後、長文を読み内容を理解したうえで、長文の内容についての質問に答える。 適宜、トピックに関連した日本文化についての解説を加える。 第1週～第7週 新宿、工場見学、方言、思い出の人形、日本間、青と緑、テスト(1) 第8週～第15週 マンガ、志のままに、すし、河童、寄席、睡眠、テスト(2)
テキスト	「日本語2ndステップ」（白帝社）
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	Intermediate　Japanese　ＩＦ
担当教官	下村 真理子
目　　標	さまざまな形式の文章表現を耳から理解できるようになる。
内　　容	各課ひとつのトピックスについての文章をテープを通して聞き、それについての質問に答えていく。文章は、各課ごとにの次第に長くなっていくが、練習によって、理解した事柄を口頭でも、筆記でも答えられるようパターン学習する。
テキスト	「毎日の聞き取り５０日 vol.2」（凡人社）
成績評価の方法	出席状況と平常点、および期末試験による総合評価。

・レベル４

授業科目	Intermediate　Japanese　II　A・II　B
担当教官	田村　泰男
目　　標	中級レベルの文法・語彙・表現の定着を図るとともに長文読解能力を養成する。
内　　容	トピックに基づいて書かれた日本語中級学習者用の読解教材を読み進みながら、中級レベルの文型・語彙・表現を学習し、部分作文によって新出項目の定着を図る。授業では、特に次の語彙・表現の解説を行う。ながら、まい、わけだ、でも、ほど、なら、ても、てくる、てしまう、ながら、よう、がる、ことにする／なる、～とか～とか、てたまらない、ばかり、ものだ、てみる、 中、～し～し、かもしれません、つもり、くらい、なければならない、まま、～から～にかけて、ものの、～やら～やら、につれて、～ば～ほど、として、によって、ところ、にとって、はず、さえ、うち
テキスト	「テーマ別中級から学ぶ日本語」（研究社）
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	Intermediate　Japanese　II　C
担当教官	坂田　光美
目　　標	身近なトピックにより、日本に対する理解を深めるとともに、多様な場面や状況を理解し、語彙を増やす。聞き取りだけでなく、多角的な練習により、総合的な日本語の力を伸ばす。
内　　容	教材を聴く前に先ず、(1)イラストによって、教材の内容を概観する。(2)関連語彙や、背景となる知識を導入する。(3)教材の内容に関する短い文章を読み、クイズに答える。 教材を聴いた後、(4)タスクに答える。(5)話題に関連した補足説明を読み、知識を深める。(6)語彙、表現の定着を図るために、口頭練習を行う。(7)音声言語としての日本語についての理解を深める。
テキスト	「毎日の聞き取りplus40　上」（凡人社）
成績評価の方法	試験、出席、課題

授業科目	Intermediate　Japanese　II　D・II　E
担当教官	田村　泰男
目　　標	中級レベルの文法・語彙・表現の定着を図るとともに長文読解能力を養成する。
内　　容	トピックに基づいて書かれた日本語中級学習者用の読解教材を読み進みながら、中級レベルの文型・語彙・表現を学習する。 授業では、特に次の語彙・表現の解説を行う。 ～ざるをえない、～ようになる、できるだけ～、～おかげで、 ～のように、～よりもむしろ～のほうが、～ことだ、～のだ、 ～とはなしに～していると、かえって～、せめて～たら、 ～するやいなや、お／ご～、たとえ～ても、～（と）している、 ～がち、～た／だ上で、～わけにはいかない、～うちに、 ～た途端、～かねない、～とのことである、～にわたって、 ～とともに、まるで～ようだ、～さ／～み／～め
テキスト	「日本語中級読解新版」（アルク）
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	Intermediate　Japanese　II　F
担当教官	坂田　光美
目　　標	ニュースの聞き取りを通じて、ニュースに特有な表現・語彙に慣れ、必要な情報を選択する能力を養うとともに、日本社会に対する知識を増やすことを目的とする。
内　　容	（前半）短文聴解　日常的な話題の聴解 1. 自然 2. 事故 3. 生活 4. 社会 （後半）長文聴解総合的な話題の聴解 1. 社会経済 2. 政治 3. 医学 4. スポーツ
テキスト	「毎日の聞き取り plus40 下」（凡人社）
成績評価の方法	中間試験、期末試験、及び出席状況を考慮して評価する。

・レベル５

授業科目	Advanced Japanese A (Listening)
担当教官	深見 兼孝
目　　標	現代日本のさまざまな問題を取り上げた時事エッセイの聴解能力を養い、併せてそれに特有の語彙・表現を学習する。
内　　容	次のような段階を踏んで、内容を理解する練習を行う。 後にそれを文字化したものを読み、理解を補う。 1) キーワードの理解と聞き取り 2) 概要の把握 3) 細部の聞き取り さらに、重要語句の使い方について練習する。
テキスト	市販の中・上級用教材の一部と付属のテープ。および担当者の自主教材。
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	Advanced Japanese B (Listening)
担当教官	深見 兼孝
目　　標	ニュースの聴解能力を養い、併せてそれに特有の語彙・表現を学習する。
内　　容	ニュースを聞き、次の段階を踏んでその内容を理解する練習を行う。また、スクリプトの完成を行うことによって、漢字、語彙、表現の使い方を学習する。 1) キーワードの理解と聞き取り 2) 概要の聞き取り 3) 細部の聞き取り 4) ディクテーション
テキスト	市販の中・上級用教材の一部と付属のテープ。および担当者の自主教材。
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	Advanced Japanese A (Analysis)
担当教官	中川 正弘
目　　標	日本語で文章を綴ることに慣れ、自分たち外国人の日本語を日本人の日本語と比較分析することで日本語の理解を深める。
内　　容	自分の使う日本語をはっきりと目に見える形にするために、毎週日本語作文を提出してもらう。その作文は自分の書いた文章と書き直しが客観的に対照しやすいようにワープロ編集をして返すので、自分の日本語の問題点を考える。授業ではそれらの日本語作文から間違っている文、あるいは何か問題がある文を例に選び、時には何通りもある書き直し方や関連するさまざまな文法、表現の例と比較しながら、日本人の日本語がどのような感覚、心理、考え方を土台としているかを分析し、さまざまな文体的事象について解説していく。前期は日本語への翻訳、要約を多く扱う。
テキスト	用例のプリントを毎回配布する。
成績評価の方法	提出作文、テスト

授業科目	Advanced Japanese B (Analysis)
担当教官	中川 正弘
目　　標	日本語で文章を綴ることに慣れ、自分たち外国人の日本語を日本人の日本語と比較分析することで日本語の理解を深める。
内　　容	自分の使う日本語をはっきりと目に見える形にするために、毎週日本語作文を提出してもらう。その作文は自分の書いた文章と書き直しが客観的に対照しやすいようにワープロ編集をして返すので、自分の日本語の問題点を考える。授業ではそれらの日本語作文から間違っている文、あるいは何か問題がある文を例に選び、時には何通りもある書き直し方や関連するさまざまな文法、表現の例と比較しながら、日本人の日本語がどのような感覚、心理、考え方を土台としているかを分析し、さまざまな文体的事象について解説していく。後期は報告文、説明文を多く扱う。
テキスト	用例のプリントを毎回配布する。
成績評価の方法	提出作文、テスト

授業科目	Advanced Japanese A (Expression)
担当教官	浮田 三郎
目　　標	日本の諺を教材にして、時には世界各国の諺と対照比較し、日本語的な表現法、比喩表現の面白さ、日本的な考え方、日本の文化や風土などの理解を目指す。
内　　容	日本の代表的な諺を、時には世界各国の諺と対照比較しながら、留学生達の意見を発表してもらい、ディスカッションする。日本語的な表現法を学習し、各々の諺が持っているテーマや特徴を、簡単なクイズ形式の設問を用いて、考えてみる機会を与える。 テーマ別には、以下に掲げる通りである。 1. 諺の表現法　2. 親と子　3. 夫婦　4. 恋愛 5. 油断と用心　6. 欲　7. 酒　8. 友　9. 秘密
テキスト	自主教材、金子武雄『日本の諺』（１９８２年）等
成績評価の方法	授業への出席状況とレポートによって評価する。

授業科目	Advanced Japanese B (Expression)
担当教官	浮田 三郎
目　　標	日本の諺を教材にして、時には世界各国の諺と対照比較し、日本語的な表現法、比喩表現の面白さ、日本的な考え方、日本の文化や風土などの理解を目指す。
内　　容	日本の代表的な諺を、時には世界各国の諺と対照比較しながら、留学生達の意見を発表してもらい、ディスカッションする。日本語的な表現法を学習し、各々の諺が持っているテーマや特徴を、簡単なクイズ形式の設問を用いて、考えてみる機会を与える。テーマ別には、以下に掲げる通りである。 1.睡眠　2.病気　3.生死　4.季節　5.天候 6.学者　7.教育　8.義理　9.動物と比喩
テキスト	自主教材、金子武雄『日本の諺』（１９８２年）等
成績評価の方法	授業への出席状況とレポートによって評価する。

授業科目	Advanced Japanese A (Classical)
担当教官	多和田 眞一郎
目　　標	「日本語古文」基礎を学習する。 日本語古文読解のための基本的知識を身につける。
内　　容	現代日本語との関連を考慮に入れながら、日本語古文を理解するための基礎力を養う。合わせて、研究のための資料として古文書を扱う際の心得についても考える。 (内容) 現代語と古典語、古典語文法基礎、十九世紀の日本語の例、十八世紀の日本語の例、十七世紀の日本語の例、漢文の基礎等
テキスト	自主教材（プリント配布）
成績評価の方法	出席、試験

授業科目	Advanced Japanese B (Classical)
担当教官	多和田 眞一郎
目　　標	日本語古文特別演習Aを踏まえ、「日本語古文」の応用学習をする。日本語古文読解のための応用的知識を身につける。
内　　容	日本語古文読解ための応用力を養う。合わせて、研究のための資料として古文書を扱う際の問題点についても考える。 (内容) 現代語と古典語、古典語文法、十九世紀の日本語の読解、十八世紀の日本 語の読解、十七世紀の日本語の読解、漢文の読解等
テキスト	自主教材（プリント配布）
成績評価の方法	出席、試験

授業科目	Advanced Japanese A (Lexical)
担当教官	田村 泰男
目　　標	常用漢字に採択されている漢字の訓読みや慣用句、擬音語・擬態語を学習することによって、より自然な日本語表現能力の習得を目指す。
内　　容	1. 漢字の訓読み 2. 同訓異字 3. 各種比喩表現 4. 身体語彙を使った慣用句 5. 動植物の語彙を使った慣用句 6. 擬音語・擬態語
テキスト	プリントを配布する。
成績評価の方法	テスト、出席、宿題

授業科目	Advanced Japanese B (Lexical)
担当教官	田村 泰男
目　　標	慣用的な読み方をする漢字や類義語、接頭辞・接尾辞などを学習することによって、日本語での表現能力を高めるとともに、各種類意表現のもつ意味上の微妙な違いについての理解をはかる。
内　　容	1.特別な読み方をする漢字 2.送り仮名によって読み方の違う漢字 3.読み方が二通りある漢字熟語 4.国字　5.畳語　6.類義語・類意表現 7.若者語　8.外来語　9.接頭辞・接尾辞
テキスト	プリントを配布する。
成績評価の方法	テスト、出席、宿題

授業科目	Advanced Japanese A (Cinema)
担当教官	石原 淳也
目　　標	日本映画・アニメーションを見ていく中で、1)日本語の音声に関する解説および聞き取り練習を行うこと、2)セリフに出てくる語の用法・意味の解説を通じて語彙を増やすこと、3)映画の中で出演者がなぜそのように振る舞うかということを通じて日本人の考え方を理解すること、4)映画の中で扱われるエピソードを通じて日本の文化を知ることを目標とする。
内　　容	第1週-第9週 「金融腐食列島」を最後まで見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。 第10週-第15週 「うる星やつら」を見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。
テキスト	必要に応じプリントを配布。
成績評価の方法	出席・授業態度・レポート

授業科目	Advanced Japanese B (Cinema)
担当教官	石原 淳也
目　　標	日本映画・アニメーションを見ていく中で、 1)日本語の音声に関する解説および聞き取り練習を行うこと 2)セリフに出てくる語の用法・意味の解説を通じて語彙を増やすこと 3)映画の中で出演者がなぜそのように振る舞うかということを通じて日本人の考え方を理解すること 4)映画の中で扱われるエピソードを通じて日本の文化を知ることを目標とする。
内　　容	映画・アニメーションを見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。
テキスト	必要に応じプリントを配布。
成績評価の方法	出席・授業態度・レポート

・日本事情

授業科目	Japanese Society and Culture A
担当教官	中矢 礼美
目　　標	この授業の目標は、現代日本における特徴的な社会現象あるいは問題をとりあげ、社会学、生命倫理学、教育学の視点から読み解き、日本の社会と文化に対する認識をより深めることである。
内　　容	1. 2. 若者のライフスタイルと職業意識 3. 4. 日本における「中流階級文化」 5. 6. ジェンダーフリー　7. 試験 8. 9. 生命倫理　10. 11. 12. 現代家族の様相 13. 14. 現代の教育課題と教育改革　15. 試験.
テキスト	テキストは特になし。毎回の授業テーマに沿った資料をコピーして配布する。
成績評価の方法	出席50%、試験50%

授業科目	Japanese Society and Culture B
担当教官	中矢 礼美
目　　標	この授業の目標は、現代日本における特徴的な社会現象あるいは問題をとりあげ、社会学、教育学、人類学の視点から読み解き、日本の社会と文化に対する認識をより深めることである。
内　　容	1. 2.　メディアとは何か 3. 4.　サブカルチャーとは何か 5. 6.　少年犯罪 7.　試験 8. 9.　男性学と女性学 10. 11.　教育問題―不登校・学級崩壊 12. 13. 14.　観光人類学－観光のしかけ・観光が作り出す文化 15.　試験
テキスト	テキストは特になし。毎回の授業テーマに沿った資料をコピーして配布する。
成績評価の方法	出席50%、試験50%

授業科目	Japanese Thought and Philosophy A
担当教官	橋本 敬司
目　　標	日本の思想・哲学を歴史的あるいは現代的に考察することにより、学習者各自が日本と日本人を発見するとともに自らの思想を形成していくこと。
内　　容	方丈記、平家物語などのテキストを読み、歴史的に日本人の思想・哲学を支える無常観・死生観・美意識などについて考察する。
テキスト	随時コピーを配布する。
成績評価の方法	出席とレポート

授業科目	Japanese Thought and Philosophy B
担当教官	橋本 敬司
目　　標	日本の思想・哲学を歴史的あるいは現代的に考察することにより、学習者各自が日本と日本人を発見するとともに自らの思想を形成していくこと。
内　　容	「日本の思想・哲学A」の学習をもとに、現代の病理として生じた事件を取り上げ、その裏に潜む日本人の思想・哲学について考察する。
テキスト	随時コピーを配布する。
成績評価の方法	出席とレポート

授業科目	Japanese Community and Culture A
担当教官	玉岡 賀津雄
目　　標	日本の地域と文化を理解すること。
内　　容	広島大学の留学生を対象に，日本の地域と文化を紹介する。地域の文化遺産，風土，人々の生活を探っていく。授業では，ビデオ，DVDなどを使って，実際の映像から日本の地域や文化を広く理解する。また，ゲストを招いて，さまざまな地域の紹介や討論を行う。地域と文化Ａでは，日本の南の地域(東京から南)を中心に紹介する。
テキスト	特になし
成績評価の方法	日々の授業への出席と活発な参加・短い事例報告・短い発表。

授業科目	Japanese Community and Culture B
担当教官	玉岡 賀津雄
目　　標	日本の地域と文化を理解すること。
内　　容	地域と文化Ａと引き続き，広島大学の留学生を対象に，日本の地域と文化を紹介する。地域の文化遺産，風土，人々の生活を探っていく。授業では，ビデオ，DVDなどを使って，実際の映像から日本の地域や文化を広く理解する。また，ゲストを招いて，さまざまな地域の紹介や討論を行う。地域と文化Ｂでは，日本の北の地域(東京より北)を中心に紹介する。
テキスト	特になし。
成績評価の方法	日々の授業への出席と活発な参加・短い事例報告・短い発表。

第21期（2006---2007）
日本語・日本文化研修プログラム

石原淳也

＜プログラム概要＞

本プログラムは、本留学生センターで受け入れる大使館推薦による「日本語・日本文化研修プログラム」研修留学生を中心に、部局間協定に基づき教育学部で受け入れられている「日本語・日本文化研修プログラム」研修留学生を対象に加え、留学生センターの四人の教員からなる「日本語・日本文化研修プログラム実施委員会」により運営されている。また、本プログラムは（1）全学の留学生向けの「日本語・日本事情」で開設されているクラスから選択履修する「日本語研修」、（2）学内外の講師による特別講義および文化施設・文化財等の見学などからなる「日本語・日本文化特別研究I, II」、そして（3）指導教官のもとでの「個別指導および課題研究」の三つの内容により構成されている。

研修生は「個別指導および課題研究」での研究経過を「日本語・日本文化特別研究I, II」の時間中に構想発表および中間発表として発表するとともに、修了式の前に行われる研修成果発表会においてその研究の成果を発表し、指導教官と留学生センターにレポートを提出する。留学生センターでは毎年これらをまとめて研修レポート集として刊行している。

＜受け入れ学生の概要＞

第21期の研修留学生の出身国、男女比の構成は次の通りであった（括弧内は、うち部局間協定に基づく教育学部受け入れ人数。）。

男子5　女子4（2）

出身国

インド2、中国3（1）、インドネシア1、イタリア1、シリア1、ニュージーランド1、

＜特別講義等＞

17 年度（第 21 期）日本語・日本文化特別研究、および、その他の行事は、以下の通りである。

2005 年度後期（第 21 期前半）　日本語・日本文化研修プログラム（特別研究 I）

10 月

8（土）	（西条オリエンテーションバスツアー）	＊＊
12（火）	13:10　開講式	石原
	13:30　オリエンテーション	中川
14（金）	特別講義「コンピュータ利用」	中川
21（金）	広島見学１（広島城・平和公園）	石原
28（金）	サタケ見学	中川

11 月

4（金）	大学祭	
11（金）	広島見学２（比治山現代美術館ほか）	中川
19（土）	リンゴ狩り	＊＊
25（金）	宮島見学	石原

12 月

2（金）	特別講義「日本の考古学」	古瀬：文学研究科
9（金）	特別講義「日本人にとっての平和」	松尾：国際協力研究科
16（金）	西条酒造会社見学	田村

1 月

14-15（土-日）	江田島国際交流キャンプ	＊＊
20（金）	マツダ見学	田村
27（金）	福山見学	田村

2 月

3（金）	特別講義「俳句」	浮田

3 月

30-31（＊）	瀬戸内海しまなみ研修ツアー	中川

2006年度前期（第21期後半）　日本語・日本文化研修プログラム（特別研究II）

4月

14（金）	オリエンテーション2	中川
21（金）	尾道見学	田村
28（金）	休講（研修レポート構想発表の準備）	

5月

5（金）	休日	
12（金）	研修レポート構想発表	石原
19（金）	特別講義「日本の教育」	田畑：国際協力研究科
26（金）	特別講義「現代日本語の語彙」	田村

6月

2（金）	特別講義「沖縄のことば」	多和田
9（金）	特別講義「日本の考古学」	古瀬：文学研究科
16（金）	呉市・下蒲刈島見学	中川
23（金）	特別講義「フェミニズム / スピリチュアリズム」	恒松
30（金）	特別講義「日本語音声学・音韻論」	石原

7月

7（金）	特別講義「日本語と文体」	中川
14（金）	研修レポート中間発表	石原
21（金）	特別講義「文化比較の視点」	浮田
28（金）	松江・出雲見学旅行　石原	

9月

1（金）	レポート提出締め切り	石原
5（火）	修了式、研修レポート発表会	

第7期　平成18年度（2006年度）
日韓共同理工系学部留学生事業入学前予備教育

石原淳也

平成10年10月の「日韓共同宣言」、平成12年8月に文部省より通知のあった「日韓共同理工系学部留学生事業実施要項」、同年8月に決定された「広島大学日韓理工系学部留学生事業」実施要項および「広島大学日韓理工系学部留学生事業」入学前予備教育実施要項に基づき、平成12年11月より広島大学においても学部入学前予備教育生に対する「広島大学日韓理工系学部留学生事業」の予備教育が開始された。以来、平成15年度まで各5名ずつ、平成16年度は2名、17年度5名、そして本18年度は4名の受け入れとなった。

留学生センターは同事業の立ち上げ段階である平成12年6月の「広島大学日韓共同理工系学部留学生事業」ワーキンググループ（国際交流委員会の下に設置され、同年8月「広島大学日韓理工系学部留学生事業」実施部会となる。）の発足段階から同事業の予備教育実施機関として中心的な役割を果たしてきた（平成12年度、13年度の経緯については多和田教授による「広島大学日韓理工系学部留学生事業発足前後」『広島大学留学生教育第6号』を参照。）が、法人化による国際交流委員会の廃止で、平成16年度より「広島大学日韓理工系学部留学生事業」実施部会は留学生センター運営委員会のもとに組織されることとなり、本事業に対する留学生センターの関与はより大きくなってきている。

本事業において留学生センターは

1. 「広島大学日韓共同理工系学部留学生事業」実施部会への参加
2. 「広島大学日韓共同理工系学部留学生事業」予備教育の実施
3. 学部入学前予備教育生に対する修学上・生活上の指導・助言（センターの部会委員は予備教育期間中指導教員となる）
4. 「広島大学日韓共同理工系学部留学生事業」予備教育の計画策定

5. 見学引率
6. 日本語教育謝金講師の指導・サポート
7. その他謝金講師のサポート
8. 予備教育講師謝金等経費の管理
9. 学生チューターの指導
等の業務を行っている。

日韓共同理工系学部留学生事業協議会について

7 月 21 日に金沢にて「日韓共同理工系学部留学生事業協議会」が開催され、石原助教授が参加。韓国国内での予備教育の実施状況、および文科省担当者、キョンヒ大学担当者、他大学担当者との意見交換を行った。

推進フェアについて

9 月 11 日韓国ソウル市「国際教育振興院」にて開催された「推進フェア」に多和田教授（実施部会長）、中川実施副部会長・教授（工学研究科）、石原助教授（実施部会委員）の三名が参加。選抜試験一次合格者に対し、広島大学についての説明およびリクルーティングを行った。

予備教育について

平成 15 年度までは、入学前予備教育において、日韓共同理工系学部留学生用に特別の日本語教育を開講していたが、平成 16 年度からは全学の留学生に向け開講されている「日本語・日本事情」のレベル 3 とレベル 4 を週当たり計 6 コマ（12 時間）履修させることとなった。また、この変更に伴い、学生の日本語能力の差にきめ細かく目配りできるよう、17 年度より、本予備教育生用に日本語会話、日本語作文を各 1 コマ開設することとした。また、本年度も生物系の学科へ進学する可能性のある者がいるため、昨年度に引き続き生物のクラスを開設することとした。なお、本 18 年度における主な行事、予備教育科目および週当たり時間数は以下の通りである。

	期間	行事等	見学(金曜)	備考
W1	10/9-10/15	10 渡日、全学オリ 11 諸手続、開講式、		
W2	10/16-10/22		20 広島城、 平和公園見学	
W3	10/23-10/29		29 留学生バスツアー	
W4	10/30-11/5	3 文化の日		金なし
W5	11/6-11/12			
W6	11/13-11/19			
W7	11/20-11/26	23 勤労感謝の日	24 宮島見学	木なし
W8	11/27-12/3			
W9	12/4-12/10			
W10	12/11-12/17			
W11	12/18-12/24	23 天皇誕生日		金なし
		冬休み(12/23-1/9)		
W12	1/8-1/14	8 成人の日		月なし
W13	1/15-1/21		19 マツダ見学	
W14	1/22-1/28			
W15	1/29-2/4			
W16	2/5-2/11	修了式		
			しまなみ研修旅行	

	月	火	水	木	金
1	化学 1 岩本	物理 2 小西	数学 1 岡本	物理 1 奥野	日本語会話 坂田
2	日本語 L4 田村	日本語 L3 渡辺		日本語 L4 坂田	文化論 坂田
3	日本語 L3 下村	英語 石原	日本語 L4 山中	日本語 L3 浮田	日本語作文 坂田
4		化学 2 山田朋	生物 韓	数学 2 山田哲	

平成18年度指導部門活動報告および広島大学留学生支援調査の結果報告

広島大学留学生センター指導部門
教　授　　玉岡　賀津雄
准教授　　中矢　礼　美

1．2006年前期の広島大学留学生支援調査「満足度指標」の結果報告

1.1 調査対象および回答者の属性

広島大学留学生課より入手したリストに従って，2006年5月1日の現在で広島大学に登録した留学生727名全員に質問紙を配布した．この内，質問紙に回答したのは235名であった．したがって，有効回答率32.32パーセントであった．これらの回答者の学籍は，大学院生が134名(57.0%)，学部生が22名(9.4%)，研究生が41名(17.4%)，その他が8名(3.4%)であった．30名(12.8%)の留学生は記述がなかった．出身国・地域は，中国が89名(37.9%)，韓国が15名(6.4%)，台湾が6名(2.6%)，マレイシアが12名(5.1%)，インドネシアが11名(4.5%)，その他が33名(14.0%)で，未記入69名(29.4%)であった．また，女性が103名(43.8%)で，男性は，107名(45.5%)であった．未記入が25名(10.6%)であった．また，私費の留学生が112名(47.7%)，国費の留学生が88名(37.4%)で，未記入が35名(14.9%)であった．また，理系が91名(38.7%)，文系が66名(28.1%)，その他が16名(6.8%)，未記入が62名(26.4%)であった．回答した留学生の平均年齢は，28歳２カ月で，標準偏差は５歳１カ月であった．最も若い留学生は，18歳で，最も年長は46歳であった．また，広島大学での在籍年数は，平均が１年８ヶ月で，標準偏差が１年４ヶ月であった．もっとも長いのは，６年９ヶ月という回答者がいた．また，短いのは１ヶ月であった．

1.2 質問紙の内容

質問紙には，留学生の属性として，性別，年齢，出身国・地域，学籍，所属，私費・公費，専門，在籍年数，使用言語などを記入する欄を設けた．質問は，留学生が不満を抱きそうな項目について８種類に絞って，「全くそう思わない」が−２点，「そう思わない」が−１点，「どちらとも言えない」が０点，「そう思う」が１点，「とてもそう思う」が２点で集計した．この配点であれば，マイナスが不満で，プラスが満足を示すので，分かりやすい．また，総合的に判断して，広島大学での学習と生活および大学の授業や研究に満足しているかどうかを同様に判断してもらった．　したがって，満足度指標の全体では10種類の質問項目である．

1.3 手続き

各留学生の名前を記入した封筒に，質問紙と学内便による返信用の封筒を入れて，

留学生の管理部局から配布していただいた．また，各管理部局には，質問紙の回答箱を用意して，入れられるようにした．さらに，返信用の封筒の表に留学生センター長および指導部門教員の名前が印刷されていたので，学内便でも返送が可能であった．

1.4 論文および指導教官との会話での使用言語

今回の調査では，もう少し詳しく回答者の属性を聞いた．まず，使用言語については，論文で使用する言語は，日本語が 100 名で，42.6%，英語が 105 名で 44.7% であった．その他の回答は２名で，回答しなかった者が 28 名であった．回答者からみると，わずかであるが英語で書く留学生が多いようである．また，指導教官との会話では，日本語を使用する留学生が 129 名で 54.9%，英語が 75 名で 31.9% となった．その他および未記入が 30 名(12.8%)であった．論文の場合とは逆に，日本語でコミュニケーションを取るという留学生が多数を占めた．英語で論文を書くが，指導教官とは日本語というパターンが多いようである．

1.5 満足度指標および総合的満足度指標の概要

10 種類の質問について，－２点から２点までの連続変数であると仮定して，平均，標準偏差を算出した．得点は，表１に示したとおりである．すべての満足度指標において，マイナスはなかった．全体的にみて，留学生が広島大学での学習，研究，生活に満足していることを示している．八つの満足度指標のうち，プラスで１点以上になった満足度使指標は，「指導教員の研究に対する指導」と「大学図書館の利用」である．もっとも低かったのは「授業の内容の理解」で，やはり日本語の問題などもあるのか満足度が低い．総合満足度指標として，学術指標である「授業と研究に対する総合的満足」が１以上であったのは，この学術面での努力の成果が認められているのではなかろうか．

1.6 パーセントで示した総合満足度

学術および生活の総合満足度をパーセントで示してみる．「満足している」かどうかについて，「そう思う」あるいは「とてもそう思う」と回答した人数を合わせて，有効回答者数で割った数値を満足度とする．その結果，学術面での総合満足度は，有効回答者数が 210 名で，上記の人数が 169 名であるので，80.5%の満足度という計算になる．また，生活面でも同様な計算をすると，有効回答者数 212 名に対して 155 名であり，73.1%の満足度である．

学術面での総合満足度	80.5%
生活面での総合満足度	73.1%

1.7 研究科ごとの満足度指標比較

学部所属の留学生の回答者数が少ないので，大学院研究科ごとの満足度指標の平均を表２に示した．灰色のセルは，満足度が平均で＋1.00 以上を示しており，良い

評価と考えてよい．白いセルが目立つほど，評価は低いことになる．

表１ 2006年前期の満足度指標の平均と標準偏差

#	満足度指標	有効回答数	満足度	標準偏差
1	指導教員の研究に対する指導	207	1.34	0.84
2	留学生の研究に関する知識	208	0.66	0.93
3	研究室の人達の助言	205	0.89	0.99
4	カリキュラムの適切性	203	0.67	0.95
5	授業の内容の理解	205	0.45	0.96
6	大学図書館の利用	212	1.09	0.82
7	日本での生活を楽しんでいる	211	0.92	0.98
8	留学生センターの情報提供	211	0.75	0.91
#	総合満足度指標	有効回答数	満足度	標準偏差
9	授業と研究に対する総合的満足	210	1.01	0.83
10	日常生活に対する総合的満足	212	0.85	0.84

注: １から10までの満足度指標は，２から-２までの変数である．

Table 1 Means and Standard Deviations of Satisfactory Indexes in the 2006 first semester

#	Satisfactory indexes	*n*	Means	SD
1	Supervisors' assistance for research	207	1.34	0.84
2	Knowledge of research	208	0.66	0.93
3	Assistance by colleagues in a research room	205	0.89	0.99
4	Expectations for Curriculum	203	0.67	0.95
5	Understanding of class contents	205	0.45	0.96
6	Use of university libraries	212	1.09	0.82
7	Housing and living environment	211	0.92	0.98
8	Information by International Student Center	211	0.75	0.91
#	Overall satisfactory indexes	*n*	Means	SD
9	Classes and Research	210	1.01	0.83
10	Daily life	212	0.85	0.84

Note : Points of satisfactory Indexes vary from 2 to -2.

表２　2006年度前期の留学生の所属する大学院ごとの満足度指標の平均

研究科・センター	留学生回答者数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	平均
文学研究科	11	1.45	0.55	0.82	0.55	0.73	1.18	1.00	0.55	1.00	0.64	0.85
教育学研究科	28	1.67	0.75	1.14	0.96	0.81	1.25	1.07	0.71	1.18	1.04	1.06
社会科学研究科	12	1.33	0.00	0.42	0.17	0.25	0.83	0.92	0.17	0.92	0.75	0.58
医歯薬学総合研究科	12	1.67	1.00	1.42	0.92	0.08	0.92	1.00	0.92	1.08	0.92	0.99
工学研究科	23	1.35	0.91	1.00	0.78	0.05	0.74	0.74	0.61	1.09	0.96	0.82
生物圏科学研究科	16	1.38	0.94	1.13	1.07	0.75	0.94	1.25	1.00	1.13	1.00	1.06
国際協力研究科	25	1.28	0.72	1.00	0.38	0.96	1.12	0.68	0.42	0.88	0.80	0.82
留学生センター	30	0.87	－	－	0.48	0.20	1.19	0.77	0.87	0.57	0.55	0.69

注1：１から10までは満足度指標で，２から-２までの変数である．灰色のセルは，1.00以上の満足度を示す．
注2：満足度指標によって回答者数が異なるが，上記の研究科および留学生センターの集計は157名(全体の235名の66.8%)の集計である．
注3：留学生の回答者数が10名以下の研究科およびセンターは表に含んでいない．

Table 2 Satisfactory Indexes in Graduate Schools in the 2006 first semester

Graduate Schools and Center	# of Students	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	Means
Letters	11	1.45	0.55	0.82	0.55	0.73	1.18	1.00	0.55	1.00	0.64	0.85
Education	28	1.67	0.75	1.14	0.96	0.81	1.25	1.07	0.71	1.18	1.04	1.06
Social Sciences	12	1.33	0.00	0.42	0.17	0.25	0.83	0.92	0.17	0.92	0.75	0.58
Biomedical Sciences	12	1.67	1.00	1.42	0.92	0.08	0.92	1.00	0.92	1.08	0.92	0.99
Engineering	23	1.35	0.91	1.00	0.78	0.05	0.74	0.74	0.61	1.09	0.96	0.82
Biosphere Sciences	16	1.38	0.94	1.13	1.07	0.75	0.94	1.25	1.00	1.13	1.00	1.06
IDEC	25	1.28	0.72	1.00	0.38	0.96	1.12	0.68	0.42	0.88	0.80	0.82
International Student Center	30	0.87	－	－	0.48	0.20	1.19	0.77	0.87	0.57	0.55	0.69

Note 1: Points of satisfactory Indexes vary from 2 to -2.
Note 2: A number of students differ in each graduate school and International Student Center. A total of students were 157 (66.8% of the total of 235).
Note 3: Graduate studies and centers responded fewer than 10 international students were excluded from the table. Thus, no centers were included.

2. 広島大学に在学する留学生の家族のための日本語クラス提供に関する調査

留学生の有効回答者 235 名の集計では，家族がいるいないにかかわらず家族のための日本語クラス開講について賛成者が 194 名の 82.6%を占めた（反対者が 15 名）．家族で来ていると回答した留学生は 49 名で，これが 20.9%に当たる．このことは，５人に１人は，家族で留学していると予想される．この内，家族の成員が日本語のクラスを取りたいと考えているのは 70%にあたり，35 名である．希望する日本語クラスは，バラバラで，ごく簡単な生活会話から中・上級クラスまで多様であることが分かった．（回答者 235 名）

以下は，詳細の回答者数である．

2.1 現在，留学生センターでは家族のために中級レベルの日本語クラスを開講しています（受講料 5,000 円）。大学はこのような日本語クラスを開講すべきだと思いますか。

はい　194 名（82.6%）
いいえ 15 名（6.4%）
無回答　26 名（11.1%）
合計 235 名

2.2 家族で留学していますか．
はい　49 名（20.9%）
いいえ 162 名（68.9%）
無回答　24 名（10.2%）
合計 235 名

2.3 ２に「はい」と答えた方のみ，次の質問にお答え下さい．
あなたの家族は日本語のクラスを受講したいと希望していますか。

以下には，50 名が回答している．（１名は誤ったのか，あるいは家族が来日したいと想定しているのか分かりませんが，49 名より多い 50 名で集計しております．）
はい　35 名（70%）
いいえ 15 名（30%）

2.4 希望すると回答した方は，次のどのレベルの日本語のクラスを受けたいのでしょうか．（40 名が回答しています．）

ごく簡単な生活に必要な会話のみ　13 名（32.5%）

初級レベル　9 名(22.5%)
中級レベル　12 名(30.0%)
上級レベル　6 名(15.0%)

3. ２００６年度指導部門活動

４月 7 日（金）　国際交流会館生活オリエンテーション（国際交流会館居住者）
13:30～14:30　（国際交流会館２F）

４月 8 日（土）東広島市オリエンテーション・バスツアー（全学新入留学生対象）
10:00～17:00　（１０時に国際交流会館前出発）

４月 10 日（月）　新入留学生全学オリエンテーション
16:30～18：00（教育 K10４）

４月 13 日（木）　図書館利用のオリエンテーション
(日本語研修生を含み全学留学生)
14:35～16:05　（中央図書館セミナールーム）

４月 20 日(木)　図書館のインテーネット検索などに関するオリエンテーション
(日本語研修生を含む全学留学生)
14:35～16:05　（中央図書館ライブラリーホール）
４月 24 日（月）　国際交流ボランティア・オリエンテーション
12 時 10 分から 12 時 40 分（K308）
４月 27 日（木）　医療および保険関係のオリエンテーション（日本語研修生対象）
14:35～16:05　（教育 K308）

５月 13 日(土)　国際交流会館の防災訓練　（国際交流会館住居者対象）
10:30～12:00　（国際交流会館）
７月 10 日（月）　国際交流ボランティア・オリエンテーション
12 時 10 分から 12 時 40 分（K308）

９月４日（月）　留学生相談協議会
１１時～１２時（教育学部 K 棟 3 階　K304)
協議題：留学生チューター制度のみなおしについて
＊別途参考資料参照

10 月 10 日（火）　新入留学生全学オリエンテーション
16:45～18：00（教育 K108）

10 月 19 日（木）　図書館利用のオリエンテーション
(日本語研修生を含み全学留学生)
14:35～16:05　（中央図書館ライブラリーホール）

10 月 25 日（水）国際交流会卒業生による講 演　―日本での就職経験－
＊別途参考資料参照
講演者：王　余　富士通中国システムズ
王　冷　富士通中国システムズ
16：30～17：30（教育学部　K102）
参加対象者：留学生，外国人研究員・教員，日本人学生，留学生センター教員、留学生専門教育教員、留学交流グループ，広島大学の教職員

10 月 26 日(木)　図書館のインテーネット検索などに関するオリエンテーション
(日本語研修生を含む全学留学生)
14:35～16:05　（中央図書館ライブラリーホール）

10 月 28 日（土）　留学生総会

10 月 29 日（日）　全学バスツアー・みかん狩り（全学留学生対象）

11 月 11 日（土）　国際交流会館の防災訓練　（国際交流会館住居者対象）
10:30～12:00　（国際交流会館）
11 月 13 日（月）　国際交流ボランティア・オリエンテーション
12 時 10 分から 12 時 40 分（K308）

11 月 27 日（月）　2006 年度広島大学国際交流懇親会
18:00～20:00（ホテルグランビア広島）

１月 20 日（土）と 21 日（日）１泊２日
趣旨　各国の青年たちが，言葉や文化の違いを越えて，互いに心の交流をする中で，　異文化を認め尊重し合う「異文化コミュニケーション能力」を身につける。
また，英会話などの世界各国の言葉にふれる機会とする。
主催　独立行政法人国立青少年教育振興機構　国立江田島青少年交流の家
共催　国立大学法人　広島大学
会場　国立江田島青少年交流の家
対象・人数　国際交流に関心のある青年（高校生以上）等　５０名
広島大学留学生/日本人学生　４３名

4. 国際交流会報告

参加者：留学生 42 名
講演者（王余、王冷、矢野伯部長：富士通中国システムズ）
教職員 7 名

4.1 国際交流会の主旨：

今回の国際交流会では、昨年広島大学を卒業し、日本の会社で就職して活躍されている王さんから、どのように就職活動を行い、就職後どのような研修を受け、現在働いているかなどについてお話して頂きました。広島大学を卒業して、日本で就職したいと考えているみなさんや、また卒業後の針路について悩んでいるみなさんにとって、とても役に立つと思い企画しました。

討論会では、参加者全員で卒業後のネットワーク構築や就職活動について情報交換や意見交換を行いました。日本人学生で就職活動を行っている人、既に内定をもらった人なども参加しました。

4.2 王余さんの講演

就職にあたっての心配事は、3 つ。

１．　言葉の問題
２．　仕事の内容
３．　人間関係

1 点目について。就職してから、3 ヶ月間の間、基礎的な知識から、プログラムのような専門的なことまで、朝から晩まで研修を受けました。その後、東京に転勤しました。初日から、プロジェクトの打ち合わせに参加することになりましたが、何が話されているのか、まったく分からず、大きなショックを受けました。その後、2 年間は、専門のトレーナーについて、仕事を教えてもらうという会社のシステムに助けられました。その中で、誠心誠意がんばれば、大丈夫ということが分かりました。私の仕事では、お客様との対応がほとんどで、日本語を用いますが、自分の個性をしっかり持ちつつ、他人を尊重し、誠心誠意尽くせば、相手に感動を与えることができます。

2 点目について。私は自動車専門部で、メーカーがお客さんです。仕事は、お客さんとの話し合いが中心です。学校の勉強はもちろん基盤となりましたが、会社に入ってから学んだことが多くを占めています。今でも、まだ勉強不足と要領の悪さから残業の続く毎日ですが、がんばらないといけないと思っています。

3 点目について。とても運がよく、周りはいい人ばかりです。就職当初、私の日本の会社についての知識は、ドラマだけでした。そのイメージとは異なり、実際には、仕事上では厳しいけれども、プライベートでは、厳しい上下関係はなく、それを超えた関係になっています。

その他、私は中国人なので、もちろん中国関係の仕事があったら、喜んでやりますが、普段はそんなことは気にしないで仕事をしています。日本人のお客さん相手

に仕事をしている訳ですから。

質問１：文系と理系の違いや、心構えで重視すべきところはありますか？
回答１：会社はいろいろな分野の人を受け入れたいと思っています。理系だけでなく、文系の人もいれば、また違った角度からのアイデアや視点から話をしてもらえるので、メリットがあると考えられています。
質問２：日本で就職したいけど、途中で挫折して中国に帰ろうと思うこともあると思います。そのような考えを持っていてはいけないでしょうか。
回答２（矢野部長）：日本の企業は終身雇用制であるといわれてきましたが、これも変化してきました。企業側は、もちろん続けてもらいたいです。多額の金額の時間を費やして研修を行っているのですから。しかし、人生それぞれであり、みなさんが夢を実現するためであれば、それを尊重してよいと思います。

4.3 王冷さんの講演

就職活動を通じて感じたことを 2 点紹介したいと思います。

1 点目は、準備についてです。まずは、心の準備です。今後どういう風に就職活動をしていくか、このまま日本に残るか、中国に帰るかについて、私も悩みました。日本を選んだ理由は、これまで長い間日本にいたけれども、大学にいただけで、実際の社会や会社に入って、もっと日本のことが知りたいと感じたからです。

2 点目は、挑戦についてです。最初は、日本の会社に入れるかな？と心配していました。就職活動は、気持ちのもちようの問題だと思います。就職活動をする中で、「自分は外国人じゃない。日本人だと思って就職活動しなければならない」と思うようになりました。そうすると、言葉の問題に引け目を感じていた自分も胸を張って堂々と活動するための自信がわいてきて、自分が変化していきました。もちろん、就職活動の時は、緊張しました。面接では特に、自分の小ささを感じます。それは、当然のことです。相手は大企業でこちらは個人ですがから。そこで、私は自分も社長であると考えることにしました。私も、自分を管理しする社長だからです。時間を管理し、財政の管理もします。つまり面接は、会社と会社の対話だと思うようにしたんです。すると緊張はなくなりました。

続いて卒業後のネットワークについてもお話したいと思います。半年間の仕事を通して、ネットワークの大切さを強く感じるようになりました。就職して、180 度環境が変わったからです。自分の立場も変わりました。悩み事も多くなり、もちろん職場の同僚や先輩に相談することもありますが、やはり同国の人と話をしたいと思うこともあります。これからもネットワーク大切にして、同国の人や広大の卒業生、今の学生に対しての応援も行っていきたいと思っています。

4.4 矢野部長からのお話

就職活動の期間は、自分自身を見つめなおす期間だと考えてください。みなさんは、自分の短所と長所を知っていますか？それぞれを認識し、そして長所をアピールしていけるようにしましょう。

先ほど、日本にとどまらず、本国に帰りたいと思った時にどうすればよいか、という質問がありました。一番大切なのは、みなさんの夢です。夢もなく、ただなんとなく帰るだけというのは、お勧めできませんが、しっかりした夢があるときは、それを追求することは大切ではないでしょうか。

また、企業は、外国人（この言葉はあまり好きではありませんが）として、みなさんを他の日本人とはちょっと違う風に見ています。みなさんは、日本という外国での就職にチャレンジしている訳ですから、それだけでチャレンジ精神を持っている人と評価します。もちろん、同じ人間としてみています。大切なのは、お客さんがどうみるかなので、とにかく、人間として自分を磨くことが大切です。言葉の問題は、さほど心配しなくても大丈夫です。王さんもこの 1 年でずっとうまくなっていますし、このレベルで十分です。

専門についてですが、多くの場合、みなさんの大学での専攻よりも人格のほうを重視します。

富士通についていえば、専攻はまったく問いません。王余さんは、情報工学でしたが、王冷さんは、経済学です。文系の人からは、広い視野からアイデアを出してもらえると思っています。（富士通についての紹介。詳細は、HP 参照：‼ HYPERLINK "http://jp.fujitsu.com/group/chugoku/" http://jp.fujitsu.com/group/chugoku/）

質問１：留学生は、専攻や言葉をそれほど心配しなくてよいということでしたが、試験内容はどうなのでしょうか。また、女性は 30 歳をすぎたら就職が難しいと聞きましたが、どうですか。

回答１：富士通では、適性検査や思考回路の速さを測定する試験を行いますので、専門知識は必要ありませんし、高度な日本語も必要ありません。

また、女性の就職についてですが、富士通では、年齢や男性・女性というのは問題ではありません。その人がどのような経験を積んでいるかというのが、重視されます。

質問２：挫折の中で、気持ちを切り替えるのは、どのようにすればいいですか？

回答２（王冷さん）：帰りたいときもありました。そのような時は、空白の時間を設けました。最初は、就職活動をしても 10 社以上落ち続け、とても落ち込みました。このような中で、就職活動を続けるかどうかを悩みました。しかし、ここで自分に負けたら、他に人には当然負けます。私は、正直、日本人に負けたくありませんでした。そこで、自分に最低のレベルを設けました。「この会社に落ちても、私はまだ生きていける」と。そうして少し心を開放し、またやる気を取り戻していきました。

（矢野部長）：就職活動にはテクニックがあるんです。自分が本当に受かりたいと思っている会社の面接は後回しにして、まずは何社か練習をしてみるといいですよ。最後に、みなさん、いい会社ではなく、いい職を探してください。

二宮副学長アンケート：

Q1.日本語が、就職するにはまだ充分でないと思っている人は？　　40 人中 5 人

Q2.今の話を聞いて、日本で就職をしたいなと思った人は？　20 人
Q3.日本で就職するのは不安だと思った人は？　15 人

以上、今回の国際交流会は、卒業生による生の体験談、企業の方による就職活動のアドバイスを頂き、非常に有意義なものとなりました。

国立江田島青少年交流の家

世界に友だちの輪をひろげよう！

平成18年度　企画事業

国際交流キャンプ

～INTERNATIONAL EXCHANGING CAMP～

新しい発見・出会いがたくさん待ってます！

友だちを作りたい！

新しい事したい！

外国の人と交流したい

英語力を試したい

平成19年
1月20日(土)
～21日(日)

開始　1/20　13:15
終了　1/21　15:15
１泊２日

そんなことを思っている方、いませんか？
素晴らしい仲間たちと一緒に、キッカケ、つかもう！

独立行政法人国立青少年教育振興機構　国立江田島青少年交流の家

趣　　旨　　各国の青年たちが，言葉や文化の違いを越えて，互いに心の交流をする中で，異文化を認め尊重し合う「異文化コミュニケーション能力」を身につける。
　また，英会話などの世界各国の言葉にふれる機会とする。

主　　催　独立行政法人国立青少年教育振興機構　国立江田島青少年交流の家

共　　催　国立大学法人　広島大学

期　　日　平成１９年１月２０日（土）～２１日（日）１泊２日

会　　場　国立江田島青少年交流の家

対象・人数　国際交流に関心のある青年（高校生以上）等　　５０名

指 導 者　広島大学留学生センター　　助教授　　中矢　礼美
　国立江田島青少年交流の家職員等

日　　程

	12:30	13:15	14:00	15:00	17:00	17:30	19:30	21:00	22:30		
1月20日(土)		受付	開講式 オリエンテーション	アイスブレイク	フィールドワーク 『 江田島探検 』 ・グループで，青年の家周辺(山，海岸等)を探検します	夕べの集い	宿舎移動 入浴 夕食	レクリエーション ・レクリエーションを楽しむ中で交流を図ります。	自由	就寝準備	就寝

	7:10	7:50	8:20	9:00	12:00	13:00	13:30	15:00	15:15		
1月21日(日)	起床 身辺整理	朝の集い 清掃	朝食	身辺整理 休憩	グループワーク 『 お互いのことをもっと知ろう！ 』 ・グループ毎にテーマを決めて活動します	昼食	退所点検	ふりかえり・まとめ ・グループでの活動を交流し合います	閉講式	解　散	

参 加 費　２，０００円（内訳…食費1，６００円，シーツ代１６０円，保険料１００円，雑費１４０円）

携 行 品　動きやすい服装，運動靴，ジャージ（長ズボン），着替え，洗面用具（※浴室には固形石鹸のみあります），筆記用具，保険証等（コピー可），その他必要なもの

申込方法　①名前（ふりがな）　②性別　③生年月日・年齢　④郵便番号・住所　⑤職業・学校名　⑥電話番号（差し支えなければ携帯電話番号もお願いします）　⑦送迎バスの利用の有無（港名）　⑧保護者名（高校生の方）
　平成１９年１月１１日（木）までに，必要事項を記入し，はがき，ＦＡＸ，電話またはＥメールで申し込んでください。　※Eメールは，その後の連絡が取りやすいので大歓迎です。

申 込 先　〒737-2126　広島県江田島市江田島町津久茂１－１－１
　国立江田島青少年交流の家「国際交流キャンプ」係
　TEL 0823-42-0661／FAX 0823-42-0664
　E-mail：etajima-mado@niye.go.jp

交通案内

【往路】

広島(宇品)港発	11:45(フェリー・上村汽船)	→ 12:10	江田島（西沖）切串港着
呉ポートピア港発	12:00(フェリー・せとうち物流)	→ 12:12	江田島（吹越）切串港着
呉中央桟橋発	12:20(フェリー・ファーストビーチ)	→ 12:40	江田島小用港着

【復路】

小用港発	15:35(フェリー・ファーストビーチ)	→ 15:55	呉中央桟橋着
切串港(吹越桟橋)発	16:07(フェリー・せとうち物流)	→ 16:19	呉ポートピア港着
切串港(西沖桟橋)発	16:15(フェリー・上村汽船)	→ 16:45	広島(宇品)港着

教育交流部門
広島大学短期交換留学（HUSA）プログラム活動報告

堀田泰司・恒松直美
（広島大学留学生センター　教育交流部門）

活動の経緯と目的

広島大学短期交換留学プログラムは、短期留学推進制度の一環として、特に日米文化教育交流会議（カルコン）においてジュニア・イヤー・アブロード・プログラムによる留学生の受け入れを積極的に推進するよう勧告されていることもあり、アメリカ合衆国を主たる対象国としながら北米、オセアニア、アジア、ヨーロッパ諸国の大学（短期学生交流協定校）に在籍する学部学生で、本学に一学期もしくは一学年度の短期間留学を希望する者を対象とするものである。日本語の習得に加え、特別に「英語による授業科目」を開設することでもって、本学で教育を受ける機会を提供し、学生交流を活性化させ、本学の一層の国際化に資することを目的とするものである。そのために特に本学では、様々な学部から特色ある専門的科目や日本・アジア理解を推進する専門的科目を提供し、将来、日本やアジアの事情に通じた人材の育成に貢献するとともに、本学の学生の国際感覚を身につけた大学生の養成を目指している。

また 2001 年より、こうした交換留学事業がより効率的且つ効果的におこなわれるようUMAP 事業が提唱する UCTS（UMAP Credit Transfer Scheme）を適応している。HUSA プログラムは、国際戦略本部の下部組織である短期留学交流プログラム部会によって統括されており、部会は、合計 15 名の各学部代表委員並びにその他委員により構成されている。但し、実務的な管理運営にあたっては、留学生センターの教育交流部門並びに国際部留学交流グループがその主たる業務を担っている。

Ⅰ．受け入れプログラムの概要

- 受け入れ期間：一学期または一学年
- 募集人員：　40 名
- 募集方法：学生交流協定を締結している（締結する）各国の大学に対し募集要項を配布し、公募する
- 応募資格：
  - （1）　本学との間に学生交流協定を締結している大学の学生または学生交流について双方が合意した書簡がある大学の学生
  - （2）　原則として自国の大学の正規課程 3 年次の学部学生（協定校によっては、院生も含む）

（3） 学業成績が優秀で日本留学に熱意を持つ者

（4） 非英語圏から応募する学生にあっては英語又は日本語による授業を履修できるのに必要な英語力を持つ者

- 選考方法：短プロ実施部会において、協定大学の推薦と UMAP 学習計画書を参考にしながら、書類をもって選考する。
- 学生の身分と受け入れ方法：学生は、留学生センターで統括し、学部生は「特別聴講学生」、院生は「特別研究学生」（広島大学学生交流規定）として受け入れる。
- 授業料等の不徴収：交流協定に基づく、特別聴講学生として受け入れるので、授業料等を徴収しない。（なお授業料については、協定の中で「相互不徴収」について合意する必要がある）
- カリキュラム：授業科目は、3 つの形態から構成されている。「特設科目」は、HUSA プログラムの学生のために特別に開設された主に英語による授業であり、「常設科目」は、既に学部で開設されていたものに、HUSA プログラムの学生が登録した場合、英語を交えて授業にするという条件のついた授業であり、日本人学生と共に履修するものである。第 3 に「日本語関係科目」は主に教育学部が開設し、留学生センターが実施している日本語・日本事情の科目である。さらに、日本語レベルが上級の学生は、各学部で日本人学生用に開設されている授業を受講することができる。また、授業科目はそれぞれの学部が開設しているものであり、その統括は各学部でおこなわれている。以下が、2006-2007 年度に開設された授業科目一覧表である。

2006-2007 年度授業科目一覧

[2006 年度秋学期]

1．特設科目【Special Course】

授業科目名	単位数	備考
Family Life in Japan	2 単位	教育学部
Seminar in Japanese Culture and Education	2 単位	教育学部
Seminar in Multicultural Art Education	2 単位	教育学部
Japanese Society and Gender Issues	2 単位	総合科学部
International Macroeconomics	2 単位	経済学部
Current and future states of the researches in the Fisheries Science	2 単位	生物生産学部
Cultural Aspect of Science Education in Japan	2 単位	教育学部
The Japanese Culture and Education	2 単位	教育学部

２．常設科目【Regular Course】

授業科目名	単位数	備考
異文化コミュニケーション論入門	2 単位	総合科学部
英語圏文学講義	2 単位	文学部
実験心理言語学	2 単位	総合科学部
言語哲学演習	2 単位	総合科学部
口腔の科学：食生活と全身の健康	2 単位	歯学部
中期英語演習	2 単位	文学部
日本語・日本事情	2 単位	教育学部
日本の法制度と社会	2 単位	法学部
物理科学実験 B	2 単位	理学部
歴史風景解析学	2 単位	文学部
アメリカ現代文学演習	2 単位	文学部
人体構造 2	2 単位	医学部
現代語研究	2 単位	文学部

[2007 年度春学期]

１．特設科目【Special Course】

授業科目名	単位数	備考
Cross-Cultural Studies on Education	2 単位	教育学部
Frontiers of Material Science	2 単位	総合科学部
Internship for HUSA program	2 単位	教育学部
Japanese Language and Literature, and Teaching Methods for Natives	2 単位	教育学部
Mathematical　Structures	2 単位	教育学部
Modern Chemistry	2 単位	理学部
Recent Developments in Biological Sciences	2 単位	理学部
Introduction to environmental science	2 単位	総合科学部
Japanese Economy	2 単位	経済学部
Development and International Education	2 単位	教育学部
Peace and Human Rights	2 単位	教育学部

２．常設科目【Regular Course】

授業科目名	単位数	備考
CMOS 論理回路設計	２単位	工学部
異文化コミュニケーション論演習	２単位	総合科学部
英語ディベート演習	２単位	総合科学部
景観生態学	２単位	総合科学部
言語学入門	２単位	総合科学部
語用論	２単位	総合科学部
細胞生物学	２単位	医学部
地球科学野外巡検Ａ	２単位	理学部
日本の政治と対外関係	２単位	法学部
日本語・日本事情	２単位	文学部
物理科学実験Ａ	２単位	理学部
ヨーロッパ外観・観念分析	２単位	文学部
英語文法	２単位	文学部
心理言語学	２単位	文学部
人体構造５	２単位	医学部
人体構造３	２単位	医学部
医学国際協力研究	２単位	医学部

日本語・日本事情関係科目

授業科目名	単位数	開講学期	備考
日本語初級　ⅠＡ	２単位	秋学期	留学生センター
日本語初級　ⅠＢ	２単位	秋学期	留学生センター
日本語初級　ⅠＣ	２単位	秋学期	留学生センター
日本語初級　ⅠＤ	２単位	秋学期	留学生センター
日本語初級　ⅡＡ	２単位	秋・春学期	留学生センター
日本語初級　ⅡＢ	２単位	秋・春学期	留学生センター
日本語初級　ⅡＣ	２単位	秋・春学期	留学生センター
日本語中級　ⅠＡ	２単位	秋・春学期	留学生センター
日本語中級　ⅠＢ	２単位	秋・春学期	留学生センター
日本語中級　ⅠＣ	２単位	秋・春学期	留学生センター

日本語中級　ⅡA	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語中級　ⅡB	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語中級　ⅡC	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語聴解特別演習　A	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語表現特別演習　A	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語古文特別演習　A	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語上級　B　（リスニング）	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語上級　B　（映画）	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語上級　B　（古典）	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語上級　B　（語彙）	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語上級　B　（表現）	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語上級　B　（分析）	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本社会・文化　A	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本社会と文化　B	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本の思想・哲学　A	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本思想と哲学　B	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本の地域・文化　A	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本の地域・文化　B	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本の映像文化史　A	2 単位	秋・春学期	留学生センター

・受け入れ体制の整備：(1) 日本における様々な体験学習の場を提供する。(2) 学生宿舎（日本人・留学生混在型）を用意するとともに、ホームステイ受け入れ家庭との交流も促進する。(3) 日本人学生チューターを事前に配置し、受け入れ開始と同時に留学生を支援する。(4) 日本語学習の補助として日本人学生の会話パートナーを紹介する。(5) 入国時身元保証人としては、各指導教官に依頼しないで、機関保障（広島大学）とする。(6) 本学が提供する教育の質を保証する活動の一環とし、成績証明書に UMAP の短期互換方式である UCTS を導入し、単位互換を促進する。

II.　2006-2007 年度 HUSA プログラム留学生受け入れ状況

2006-2007 年度は、アメリカ、オーストラリア、イギリス、オランダ、ドイツ、オーストリア、スウェーデン、ロシア、ニュージーランド、カナダ、タイ、フィリピン、韓国、中国の 42 大学と 1 コンソーシアム（2002 年度 22 大学、2003 年度 27 大学、2004 年度 21 大学、2005 年度 30 大学）から計 41 名（2002 年度 39 名、2003 年度 47 名、2004 年度 43 名、2005 年度

50 名）の留学生を受け入れた。期間は、殆どの学生が 1 年間の滞在を希望しており、男女別で見ると 2006 年度秋学期は男子学生 18 名、女子学生 23 名、2007 年度春学期は男子学生 14 名、女子学生 23 名であった。

III.　2006-2007 年度 HUSA プログラム受け入れ活動

申請と選考：2006 年度募集要項は、2006 年 1 月に各協定大学へ配布され、3 月末に各大学から参加希望者が推薦された。推薦された学生について、4 月に、本学の選考委員会によって HUSA 参加者が正式決定された。今年度も受け入れ留学生の申請において、UMAP 学習計画書も申請書類の中に組み込み、選考や奨学金の推薦の参考資料として利用した。2004 年度の申請から、受け入れ留学生のオンライン登録を受け付け始めたが、2006 年度も同じオンライン登録を使用した。オンライン登録により、学生が直接インターネットから情報を入力し、受け入れ留学生のデーターベースが作成できるようになった。昨年は初めての試みで、試行錯誤もあり、問題点などもあったが、本年は昨年の経験も踏まえ、より効率的な形でオンライン登録ができた。HUSA 受け入れ留学生が増加していくことが予測される中、今後も学生のデーターベース作成、管理にオンライン登録を活用していきたい。

渡日前の情報の提供：渡日前のオリエンテーションと日本での生活の準備を兼ねて、広島大学及び留学生活に関する情報を網羅した英語版の「短期交換留学生用手引き(Information for New Students)」を改訂して各学生に送付した。また、ホームページによって HUSA プログラム、広島大学、日本での生活について詳細な情報を提供するとともに、「よくある質問」を掲載し、留学生がよく疑問に思う事項について説明した。さらに、2003 年度 HUSA プログラムより開講しているインターンシップ・コースについての情報も掲載した。それらに加え、学生の個人的な質問等には、電子メールやファックスを活用し、直接個々のケースに対応した。

チューターオリエンテーション：日本人学生チューターに対し、今年度も事前に 2 回の説明会を行った。第 1 回目は、チューターとしての全般的な支援活動の内容について説明し、第 2 回目は、留学生が来日する直前に、渡日後 1 週間の事務手続き並びに寮へ入居するまでの具体的な支援活動についてオリエンテーションを行った。

見学・体験学習：2006 年度春学期には、4 月に花見会を開催し、日本人学生と交流の機会を持った。2006 年度秋学期には、毎年のように 10 月から 11 月にかけて、酒祭り見学、秋大祭見学、文化交流のための学校訪問、地域学校との国際交流会など文化体験学習の機会を提供してきた。

授業科目の開設状況：短期プログラム用の開設科目は、毎年、各学部で審議され、今年度も 78 科目（一般 49 科目、日本語教育：春学期 25 科目、秋学期 29 科目）が短期交換留学生のために開講された。一昨年から留学生センターが実施している日本語教育科目は、短期交換留学プログラム用の特設科目となった。2003 年度からは初級・中級を特設科目とし、上級の科目は研修生や正規留学生そして研究生と合同で受講することになり、幅広い充実した日本語カリキュラムが組まれている。

2003 年度より春学期にインターンシップ・コースを開設し、2003 年度は企業・公官庁に 2 名、2004 年度及び 2005 年度には各 6 名、2006 年度には 3 名を派遣した。2005 年度より、インターンシップ派遣前に事前研修を行い、インターンシップに備えている。インターンシップ修了後は、東広島商工会議所関係者、及び受け入れ企業の関係者と懇親会をもった。地域との連携の中で大学の国際化と留学生の日本での就業体験をさらに充実したものにしていきたい。

文化交流支援活動：例年通り二つのホームステイプログラムを実施した。口和町教育委員会と協力して、11 月に第 9 回目のホームステイプログラムを実現した。参加した留学生は各家庭訪問に加え、全体での交流や、消防訓練実地体験、祝詞、着物着付け、餅つきなど日本文化体験を楽しんだ。また、忠海高校とも協力し、第 5 回目のホームステイプログラムを行った。家庭でのホームステイに加え、高校での全体交流、各グループに分かれて、茶道、書道、調理、メディアのクラスなどを体験した。さらに、当留学生センターの指導部門による国際交流ボランティア制度を利用し、日本人学生の会話パートナーを短期留学生に紹介し、交流を促進した。また、日本人チューターを本年から選考方法を変え、国際交流ボランティア、広島大学電子掲示板を通して募集し、国際交流に関心の高い学生をチューターとして採用した。

地域貢献：2003 年度より、東広島商工会議所から、国際理解のための留学生の母国についての講和を依頼されている。2003 年度はフランス・韓国、2004 年度はアメリカ・カナダ・ギリシャ、2005 年度にはドイツ、2006 年度にはタイからの HUSA 留学生が商工会議所を訪問し、母国の文化・習慣や日本との相違について話した。また、HUSA 留学生が、地域の小学校・中学校・高校を訪れ、国際交流を行った。2005 年 9 月及び 2006 年 1 月には、国立江田島青年の家と広島大学留学生センターとの共済で、外国人と日本人が交流を通して異文化コミュニケーション能力を身につけることを目的とした「国際交流ボランティアセミナー」が江田島青年の家で開催され、HUSA 学生も参加した。さらに、2006 年 11 月には、留学生と留学生の家族、広島大学職員の参加するバス見学旅行「りんご狩りツアー」に HUSA 留学生も参加した。

HUSA 広報活動: HUSA ホームページにはプログラムの概要、申請方法、スタッフ紹介、HUSA に関するニュース、開講コース案内、シラバス、奨学金・寮・大学施設についての情報、国際交流行事案内、HUSA パンフレット、広島大学及び地域についての情報など、すべてが網羅されている。サイトを常に更新し、HUSA プログラムについての最新情報を提供している。

HUSA プログラム評価：プログラム改善の参考とするため、毎学期、HUSA プログラム全体評価、各コース評価、学生チューター評価を行っている。学生にアンケート用紙を配布し、回収し、結果をまとめ、プログラム改善に役立てている。

IV. 2006－2007 年度 HUSA 留学生派遣計画

本学からの留学生派遣事業に関しては、本年度も 1 月初旬に応募者の選考試験を行い、1 月中には実施委員会で選考、2～5 月に受け入れ大学へ推薦という日程で選考・推薦を行っている。以下は、派遣学生の募集に関する 17 年度の募集に過去の資料を加え、まとめたものである。

募集要項

1．制度の趣旨：

短期交換留学プログラムは、学部生・大学院生が短期学生交流協定等に基づいて母国の大学に在籍しつつ、派遣先の大学において学習、異文化体験、語学の実地習得等を目的として、概ね 1 学年以内の 1 学期又は、複数学期教育を受けて単位を取得し、研究指導を受ける制度で、平成 8 度後期から、アメリカ、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、マレーシア、タイ、フィリピン、インドネシア、中国、韓国、ロシア、ポーランド、オーストリア、ドイツ、オランダ、スウェーデン、イギリスの大学から主として学部学生を短期交換留学生として招致し、本学の学部学生を各国各協定大学に派遣するという相互交流事業である。この交流事業は派遣先大学において授業料不徴収及び単位互換認定の制度を内容としており平成 17 年度の派遣学生を別紙の通り募集する。 広島大学短期交換留学プログラム及び独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）短期留学推進制度による海外派遣についての選考は、短期留学交流プログラム部会委員が部会を開催し、決定している。

2．特徴：

- 授業料不徴収
- 単位互換制度
- 現地コーディネータのアシスタント
- 短期交換留学生との留学前の交流と留学後の現地での交流

3．出願書類

①派遣申請書（所定の様式）

②留学計画書（所定の様式）

③TOEFL 成績表

英語能力を応募条件とする大学に留学予定の学生 ; 530 点（CBT197 点）以上が望ましい。ただし，USAC 語学文化研修応募希望者については，500 点（CBT173）が必須条件。

注. 英語圏以外で英語能力を応募条件としない大学に留学予定の学生は , 別途行う学内語学試験の成績による。

④学業成績証明書（大学院生については，学部の学業成績証明書も含む。）

４．出願書類提出先及び締切り

各学部等派遣留学担当係　　平成 18 年 11 月 27 日（月）

５．面接（口述）試験

平成 19 年 1 月 5 日（金）

６．留学中の学生の身分

この制度を利用して留学する場合は，「留学願」の届出を行い，必ず学長の許可を受けなければならない。この場合，外国の大学での学修は本学の教育課程の延長線上にあるものとして考えられ，次のとおり修学上の取り扱いがなされる。

・ 外国の大学で学修した成果は本学の履修単位として換算することが可能であり，従って換算された単位は当然卒業に必要な単位数に算入される。
・「留学」の期間は，在学期間に算入され，卒業に必要な在学期間の一部となる。
・「留学」の期間は，本学に所定の授業料を支払わなければならない。

V. HUSA 留学生派遣事業の実績

2006 年度の短期交換留学生派遣に関しては、27 名を推薦し、中国、アメリカ、オーストラリア、ドイツ、スウェーデン、イギリス、ポーランド、オーストリアの 14 大学へ派遣した。今後の課題としては、派遣留学生数をいかにして受け入れ留学生数とバランスの取れた規模にするかである。2007 年度は、そうした交流バランスを是正するために、特にアジアの協定校への派遣を積極的に促進する計画である。

VI.　HUSA 留学生派遣事業の活動状況

- 広報活動：例年通り HUSA 留学生も協力し、留学フェアを 6 月に開催した。各協定大学からの留学生がブースを設け、また日本人学生の派遣のための説明会も開催した。また、早い時期に HUSA について知ってもらうため、4 月に入学する学生に渡す書類一式の一部でも HUSA に関する情報を渡した。HUSA ホームページにはプログラムの概要すべてが網羅されているが、サイトを常に更新し、HUSA についての最新情報を提供している。

- 留学前の情報提供と留学計画の促進：例年、派遣が決定した本学の学生に対し 2 度に渡るオリエンテーションを実施しており、留学に関する一般的な情報と共に、協定校から来ている留学生との交流の場を提供している。その学生間の交流は留学後も続き、協定校においても継続的な交流活動が行われている。また、留学前に指導教官並びに学部との単位互換に関する話し合いの場を設ける意味で、UMAP 学習計画書を 4 月の第 1 回目のオリエンテーションで配布し、留学 2～3 ヶ月前までに、提出するよう要求している。

VII. HUSA プログラム 10 周年記念事業

2007 年 3 月 14・15 日に、HUSA プログラム 10 周年記念及び HUSA 国際シンポジウム「大学教育の国際化の未来像：何のための学生交流なのか？」(International Symposium on “Why do we need student exchanges? Future Models for the Internationalization of Higher Education”)を短期留学交流プログラム部会の主催で行った。協定大学であるアメリカ・ミネソタ大学、中国・大連理工大学、ロシア・トムスク教育大学より国際部及び交換留学の担当者を招聘し、当該大学の国際的連携や学生交流の意義について講演をお願いし、その後、全体討論会を行った。シンポジウム参加者は、協定大学の交換留学担当職員（上記の講演者に、オーストラリア、ポーランド、韓国の協定大学からの参加者を加え、合計 6 カ国 7 大学から 8 名)、広島大学職員、海外留学経験のある学生、HUSA プログラム留学生及び同窓生等、述べ 50 名以上になった。様な見解が出された。HUSA プログラム担当教員は司会・通訳を務める傍ら、大学の国際化及び学生交流の意義についての見解を述べた。

VIII.　主なその他の活動

[2006 年]

4 月　・イギリス・レスター大学交換留学プログラム担当者来校
・スウェーデン・マルメ大学国際部交換留学プログラム担当者来校

5 月　・オーストリア・グラーツ大学国際部職員来校
・オーストラリア・ラトローブ大学交換留学担当者来校

10 月　・中国・大連理工大学国際文化交流学部、国際協力交流課より来校
・アメリカ・モンタナ大学副学長来校
・HUSA 担当教員が台湾で開催された UMAP 国際大会に日本の国際交流専門家のパネリストとして出席

11 月　・フィリピン・フィリピン大学ディルマン校より言語学部ディレクター来校
・オーストラリア教育科学省より来校

12 月　・中国・東北師範大学学長来校

[2007 年]

1 月　・アメリカ・ミネソタ大学国際部職員・交換留学担当教員来校

3月　・フィジー・南太平洋大学学生交流担当教員来校
広島大学短期交換留学（HUSA）プログラム 10 周年記念式典並びに記念シンポジウムを開催

留学生と客員研究員の

家族のための日本語特別クラス

中川正弘

留学生センターでは、広島大学の外国人留学生、外国人客員研究員の生活条件の重要な部分を占める家族の生活を向上させることで、彼らの研究活動を側面から支援するため、その家族を対象とした中級日本語クラスを 2004 年 10 月より開講してきました。

2006 年度前期も、これまでと同様、以下のような開講形式で、日本語のレベルを中級Ⅰと中級Ⅱに分け、どちらも 1 コマ 60 分の授業を週二日行いました。

受講料：５０００円
場所：東広島キャンパス内大学会館集会室
講師：留学生センターの推薦する謝金講師
問い合わせ／受け付け：広島大学国際部留学交流グループ

2006 年度前期	中級Ⅰ	5 名
	中級Ⅱ	6 名

※「家族のための日本語特別クラス」は 2007 年度前期より広島大学国際部が受講無料で開講することとなりました。

留学生センター教員研究・その他の活動業績

１．研究論文・著書

Tamaoka, K. “The dual mechanism for processing English and Japanese verbs” *Studies in Language Sciences*, vol. 6, 2007, pp. 35－43.

Tamaoka, K., & Koizumi, M. “Issues on the scrambling effects in the processing of Japanese sentences: Reply to Miyamoto and Nakamura (2005) regarding the experimental study by Koizumi and Tamaoka (2004)” 『言語研究』第 129 号, 2006, pp. 181－226.

玉岡賀津雄　「『決定木』分析によるコーパス研究の可能性: 副詞と共起する接続助詞『から』『ので』『のに』の文中・文末表現を例に」, 『自然言語処理』第 13 号(2), 2006 年, pp. 169－179.

小森和子, 玉岡賀津雄, 近藤安月子　「第二言語としての日本語の単語認知に及ぼす文文脈の影響－二言語混在文の正誤判断における抑制効果の観察を通して－」, 『小出記念日本語教育研究会論文集,』第 15 号, 2007 年, pp. 7－21.

柴崎秀子, 玉岡賀津雄, 高取由紀　「アメリカ人は和製英語をどのぐらい理解できるか－英語母語話者の和製英語の知識と意味推測に関する調査－」,『日本語科学』第 21 号, 2007 年, pp. 89－110.

小泉政利, 玉岡賀津雄　「文解析実験による日本語副詞類の基本語順の判定」, 『認知科学』第 13 号(3), 2006 年, pp. 392－403.

宮岡弥生, 玉岡賀津雄, 林炫情　「接頭･接尾辞と漢字二字熟語との結合力に関する日韓対照研究」,『日本語學研究,』第 16 号, 2006 年, pp. 33－46.

Meerman, A. D., & Tamaoka, K. “Can Japanese ESL students recognize the correct order of adjectives in noun phrases?” *International Journal of Curriculum Development and Practice*, vol. 8, no. 1, 2006, pp. 1－11.

多和田眞一郎（編）　『講座・日本語教育学　第 6 巻　言語の体系と構造』, スリーエーネットワーク, 2006 年.

多和田眞一郎　「文法 I （語)」, 『講座・日本語教育学　第 6 巻　言語の体系と構造』, スリーエーネットワーク, pp.33－49, 2006 年.

多和田眞一郎　「日本語の系統」, 『講座・日本語教育学　第 6 巻　言語の体系と構造』, スリーエー

ネットワーク, pp.98－108, 2006 年.

多和田眞一郎　「柳菴叢書」『東아시아古代学』, 東アジア古代学, 第 14 号, 2006 年, pp.663－669

多和田眞一郎　『沖縄語音韻史研究の基盤構築・整備』, 平成 18 年度・19 年度科学研究費補助金（基盤研究(C)）研究成果報告書（1）, 広島大学留学生センター, 2007 年 3 月.

恒松直美　「短期交換留学プログラムにおける英語による授業の日本人学生への開講－カリキュラムの国際通用性と生涯学習－」, 『総合学術学会誌』, 第 5 号, 2006 年, pp.29－36.

恒松直美　「広島大学短期交換留学プログラム留学生の受講授業の多様性－日本留学の意義と魅力－」, 『広島大学留学生センター紀要』, 第 17 号, 2007 年, pp.11－32.

恒松直美　「短期交換留学プログラムの英語で行われる授業－自己と異文化適応－」『留学生教育』, 第 11 号, 2007 年, pp.9－23

中川正弘　「日本語における『ねじれ』の感覚と文の単位性」, 『留学生教育』, 第 11 号, 2007 年, pp.25－37

ハン建秀, 中矢礼美　「留学生アドバイザーの資質・能力に関する研究」, 『教育学研究紀要』, 第 52 巻, 2006 年, pp. 305－310.

中矢礼美　「フィリピンにおける Competency Based Curriculum に関する研究」, 『教育学研究紀要』, 第 52 巻, 2006 年, pp. 228－233.

中矢礼美　「インドネシアにおけるコンピテンシーを基盤とするカリキュラムに関する研究」, 『教育学研究ジャーナル』, 第 3 号, 2007 , pp. 19－28.

深見兼孝　「日本語と韓国語」, 縫部義憲（監修）, 多和田眞一郎（編）『講座・日本語教育第 6 巻　言語の体系と構造』, スリーエーネットワーク, 2006 年, pp.156－171.

深見兼孝　「日本語教育から見た日本語の指示詞表現(2) －文脈指示の『その』と『そんな』－」, 『広島大学留学生センター紀要』, 第 17 号, 2007 年, pp. 1－10.

２．学会発表

浮田三郎　「現代ギリシア語における月に関する諺」, 日本ギリシア語ギリシア文学会, 2006 年 10 月 28 日

Tamaoka, K., Ihara, M., Murata, T. & Lim, H.　“Psychological determination in　Japanese

sequential voicing: The influence of first-element phonological-length and etymological-type on the voicing of second elements" Phonology Forum 2006, 早稲田大学, 2006 年 8 月 23－25 日.

Tamaoka, K., Muraoka, S., Miyaoka, Y. & Sakai, H. "The subsequent incremental syntactic anticipation (SISA) model for explaining the processing of canonical and scrambled Japanese active sentences" The Fifth International Workshop on Evolutionary Cognitive Sciences 'Human Sentence Processing and Production', 東京大学, 2006 年 7 月 14－15 日.

玉岡賀津雄, 林炫情, 池映任, 柴崎秀子 「韓国語母語話者の和製英語の理解に及ぼす日本語の学習経験および語彙力の影響」, 韓國日本語學聯合會, 第 4 回國際學術發表會, 韓南大學校聖志館, 2006 年 7 月 6 日.

玉岡賀津雄, レベント・トクソー 「新しく造られた短縮系の'若者言葉'の波及－広島地域における世代差および性差からの検討」, モフォロジー・レキシコン・フォーラム(Morphology and Lexicon Forum 2006), 東京大学, 2006 年 5 月 13－14 日.

Kuribayashi, Y., Tamaoka, K. & Sakai, H. "Psycholinguistic investigation of subject incorporation in Turkish" The 13th International Conference on Turkish Linguistics, Uppsala University, Uppsala, Sweden, August 16-20, 2006.

Tanaka, J.-I., Tamaoka, K., & Sakai, H. "Syntactic priming effects in the processing of a head-final language" The 19th Annual CUNY Conference on Human Sentence Processing, CUNY Graduate Center, 365 Fifth Avenue, New York, NY, U.S.A., March 23-25, 2006.

小泉政利, 玉岡賀津雄 「日本語の主語は動詞句内部に留まる場合がある: 行動実験からの証拠」,日本言語学会第 133 回大会, 札幌学院大学, 2006 年 11 月 18 日－19 日.

小森和子, 玉岡賀津雄, 近藤安月子 「日本語の文正誤判断に見られる中国語の書字形態と統語構造の影響－日本語習熟度の異なる中国語母語話者を比較して」, 小出記念日本語教育研究会第 15 回研究会 , 2006 年 7 月 1 日, 東京女子大会.

小森和子, 玉岡賀津雄, 近藤安月子 「二言語混在文の単語認知処理における干渉効果－中国語を母語とする日本語学習者の場合」, 言語科学会第 8 回年次国際大会, 国際基督教大学, 2006 年 6 月 10 日.

小森和子, 玉岡賀津雄, 近藤安月子 「中国語を第一言語とする日本語学習者の漢字二字熟語の認知処理－心理言語学的手法による考察から」, 日本語教育学会 2006 年度春季大会, 東京外国語大学, 2006 年 5 月 21 日.

林炫情, 玉岡賀津雄, 宮岡弥生　「肯定と否定表現の違いが行為要求型表現の丁寧度に及ぼす影響」, 韓国日本学会第 74 回国際学術大会, 建国大学校師範大学日語教育科, 韓国, ソウル, 2007 年 2 月 10 日.

柴崎秀子, 玉岡賀津雄, 毎育新　「中国語母語話者における日本語短縮語の知識と習得に関する調査」, 第 7 回国際日本研究, 日本語教育シンポジウム , 香港中文大学日本研究学科, 中国, 2006 年 10 月 29 日－30 日.

柴崎秀子, 玉岡賀津雄, 高取由紀　「英語母語話者の和製英語の知識と意味推測に及ぼす日本語学習経験の影響」, カナダ日本語教育振興会 2006 年度年次大会, 国際交流基金トロント日本文化センター, カナダ, 2006 年 8 月 26 日.

多和田眞一郎「『柳菴叢書』再考察」, 広島韓国研究会第 1 回研究会 , 広島大学 , 2006 年 5 月 13 日

多和田眞一郎「19 世紀　朝鮮魚商이 본 琉球（19 世紀朝鮮魚商の見た琉球）, 東アジア古代学会　第 28 回　学術発表大会 , 対馬島　大亜 HOTEL 大亜 GARDEN , 2006 年 8 月 3 日.

多和田眞一郎　「히로시마 대학교의 국제화(Internationalization of Hiroshima University)」, 『아시아교원교육공동체 구축을 위한 국제심포지엄（International symposium of educational consortiums in Asia）, 韓国教員大学, 2006 年 11 月 3 日

深見兼孝　「日韓対訳から見た両言語の特徴について−語・句・節の変更－」, 広島韓国研究会第 2 回研究会, 広島大学, 2006 年 6 月 10 日.

深見兼孝　「韓国語の個数表現（数詞＋助数詞）における固有語系数詞と漢語系数詞の使い分けについて−研究の方向性を探って−」, 日本総合学術学会 2006 年度秋季大会, IWAD 環境福祉専門学校, 2006 年 11 月 18 日.

堀田泰司　「日本の高等教育における学生交流の質保証：国際カリキュラム開発の現状と課題」, 第 42 回日本比較教育学会, 広島大学, 2006 年 6 月 24 日.

３．学術研究補助金

玉岡賀津雄　研究代表者（平成 18 年度～平成 19 年度）基盤研究 C(2) 「中国語・韓国語・トルコ語系日本語学習者の名詞句構造の習得における母語の影響」

玉岡賀津雄　研究分担者（平成 16 年度～平成 18 年度）基盤研究 C(2)「動詞の項構造, 統語構造と基本

語順に関する認知脳科学的研究」(研究代表者－東北大学・大学院文学研究科・言語科学専攻・准教授・小泉政利)

玉岡賀津雄　研究分担者（平成 16 年度～平成 21 年度）独立行政法人科学技術振興機構(JST)・社会技術研究システム推進室・社会技術研究事業, 研究領域「脳科学と教育 タイプⅡ」研究課題「言語の発達・脳の成長・言語教育に関する統合的研究」(研究代表者－首都大学東京・人文学部・准教授・萩原裕子)

玉岡賀津雄　研究分担者(平成 18 年度～平成 19 年度)特定領域研究「統語的・語彙的プライミングを用いた再帰的計算能力を支える皮質構造の解明」(研究代表者－広島大学・大学院教育学研究科・准教授・酒井弘)

玉岡賀津雄　研究分担者(平成 18 年度～平成 19 年度)萌芽的研究「英語母語話者と中国語母語話者における和製英語の知識と意味理解に関する調査」(研究代表者－長岡技術科学大学・工学部教育開発系・教授・柴崎秀子)

多和田眞一郎　研究代表者（平成 18 年度～平成 19 年度）基盤研究Ｃ「沖縄語音韻史研究の基盤構築・整備」

恒松直美　研究代表者（平成 18 年度～平成 19 年度)「外国人留学生・日本人学生に対する国際教育の改善を目指した調査研究」広島大学学長裁量経費助成金

４．その他の活動

A. 地域貢献、社会貢献

浮田三郎　財団法人石田教育振興財団評議員

多和田眞一郎　「キワニス留学生奨学金・日本語作文」審査委員長

堀田泰司　UMAP 日本国内委員会専門委員

B. 学会活動

石原淳也　日本語教育学会中国地区研究集会コーディネーター

石原淳也　日本語教育学会中国地区研究集会「持ちネタ披露」パネリスト（「授業に対する考え方」）

浮田三郎　日本ギリシア語ギリシア文学会副会長

浮田三郎　言語文化教育学会理事

玉岡賀津雄　日本言語学会役員および広報委員

玉岡賀津雄　日本認知科学会運営委員および編集委員

玉岡賀津雄　日本音韻論学会理事

玉岡賀津雄　日本読書学会理事

玉岡賀津雄　認知神経心理学研究会理事

玉岡賀津雄　『認知科学』編集委員

玉岡賀津雄　『レキシコン・フォーラム』編集委員

Katsuo Tamaoka　学術誌 Mental Lexicon (John Benjamin Publishing Company)編集委員

Katsuo Tamaoka　Chair of the International Development in Asia Committee, International Reading Association.

多和田眞一郎　日本総合学術学会会長

多和田眞一郎　広島韓国研究会副会長

多和田眞一郎　韓国日本文化学会海外理事

深見兼孝　西日本言語学会運営委員

深見兼孝　日本総合学術学会理事

深見兼孝　広島韓国研究会理事

C. 講演・ワークショップ等

浮田三郎　公開講座「現代ギリシアのことばと文化（３）」, 広島大学, 2006 年 6 月 19 日,6 月 26 日, 7 月 3 日,7 月 10 日.（計 4 回）

玉岡賀津雄　講演「短縮語にみる‘若者言葉’」西安外国語大学, 中国, 2006 年 5 月 25 日.

玉岡賀津雄　講演「言語研究における反応時間および誤答率データの解析」, 『第二言語習得と外国語教育に関する公開講演会シリーズⅢ』, 名古屋大学大学院国際開発研究科, 2006 年 6 月 24 日.

玉岡賀津雄　講演「コーパスデータを使った統計および数学的な言語解析—接続助詞の文末用法, 語彙・統語的複合動詞の使用, 軽動詞スルの付加を決めるアスペクトの 3 つの言語研究を例に」東京外国語大学「多言語社会に貢献する言語教育学研究者養成」言語教育学プログラム推進室」主催, 東京外国語大学大学院地域文化研究科, 2006 年 7 月 16 日.

玉岡賀津雄　講演「日本文の認知処理における基本情報－日本語母語話者と中国人日本語学習者の実験データからの考察」, 同志社大学・大学院文学研究科, 2006 年 10 月 21 日.

堀田泰司　講演「Japanese Cultural Briefing」, UNITAR『Foreign Direct Investment for Development Financing』研修コース, 国連訓練調査研究所（UNITAR）アジア太平洋地域広島事務所, 2006 年 5 月 14 日.

堀田泰司　講演「Japanese Cultural Briefing」, UNITAR『Food Security』研修コース, 国連訓練調査研究所（UNITAR）アジア太平洋地域広島事務所, 2006 年 10 月 1 日 .

堀田泰司　講演「Japanese Cultural Briefing」, UNITAR『Fellowship for Afghanistan』研修コース, 国連訓練調査研究所（UNITAR）アジア太平洋地域広島事務所, 2006 年 10 月 12 日.

堀田泰司　パネリスト兼講演「UMAP Activity in Japan」, アジア・太平洋大学交流機構（University Mobility in Asia and Pacific, 以下 UMAP）国際大会『International Exchange Students Forum』国際事務局主催, 台湾大学協賛, 台湾, 2006 年 10 月 14 日.